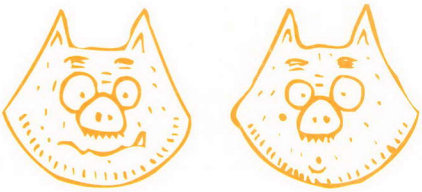
ポプラポケット文庫



ポプラ社

みなさんとともに明るい未来を

一九七六年、ポプラ社は日本の未来ある少年少女のみなさんのしなやかな成長を希って、「ポプラ社文庫」を刊行しました。

二十世紀から二十一世紀へ――この世紀に亘る激動の三十年間に、ポプラ社文庫は、みなさんの圧倒的な支持をいただき、発行された本は、八五一点。刊行された本は、何と四千万冊に及びました。このことはみなさんが一生懸命本を読んでくださったという証左でもあります。

しかしこの三十年間に世界はもとよりみなさんをとりまく状況も一変しました。地球温暖化による環境破壊、大地震、大津波、それに悲しい戦争もありました。多くの若いみなさんのかけがえのない生命も無惨にうばわれました。そしていまだに続く、戦争や無差別テロ、病気や飢餓……、ほんとうに悲しいことばかりです。

でも決してあきらめてはいけないのです。誰もがさわやかに明るく生きられる社会を、世界をつくり得る、限りない知恵と勇気がみなさんにはあるのですから。

――若者が本を読まない国に未来はないと言います。

創立六十周年を迎えんとするこの年に、ポプラ社は新たに強力な執筆者と志を同じくするすべての関係者のご支援をいただき、「ポプラポケット文庫」を創刊いたします。

二〇〇五年十月

坂井宏先

作・絵　原ゆたか（はら　ゆたか）
1953年、熊本県に生まれる。1974年KFSコンテスト・講談社児童図書部門賞受賞。主な作品に、『ちいさなもり』「プカプカチョコレー島」シリーズ、「よわむしおばけ」シリーズ、「ほうれんそうマン」シリーズ、「かいけつゾロリ」シリーズ、「おばけのユータくん」シリーズ、「魔法のおみやげ」シリーズなどがある。

このお話の主人公かいけつゾロリは「ほうれんそうマン」シリーズの著者みづしま志穂氏の御諒解のもとにおなじキャラクターで新たに原ゆたか氏が創作したものです。

収録作品について
『かいけつゾロリのゆうれいせん』（ポプラ社 1989.10）
『かいけつゾロリのチョコレートじょう』（ポプラ社 1990.2）

2006年１月　第１刷　　2009年11月　第５刷

ポプラポケット文庫050-3

ゾロリ２in１ かいけつゾロリの**ゆうれいせん**
チョコレートじょう

作・絵　**原ゆたか**
発行者　坂井宏先
発行所　株式会社ポプラ社
東京都新宿区大京町22-1・〒160-8565
振替　00140-3-149271
電話（編集）03-3357-2216　（営業）03-3357-2212
（お客様相談室）0120-666-553
FAX（ご注文）03-3359-2359
インターネットホームページ http://www.poplar.co.jp
印刷所　瞬報社写真印刷株式会社
製本所　株式会社ブックアート
Designed by 濱田悦裕

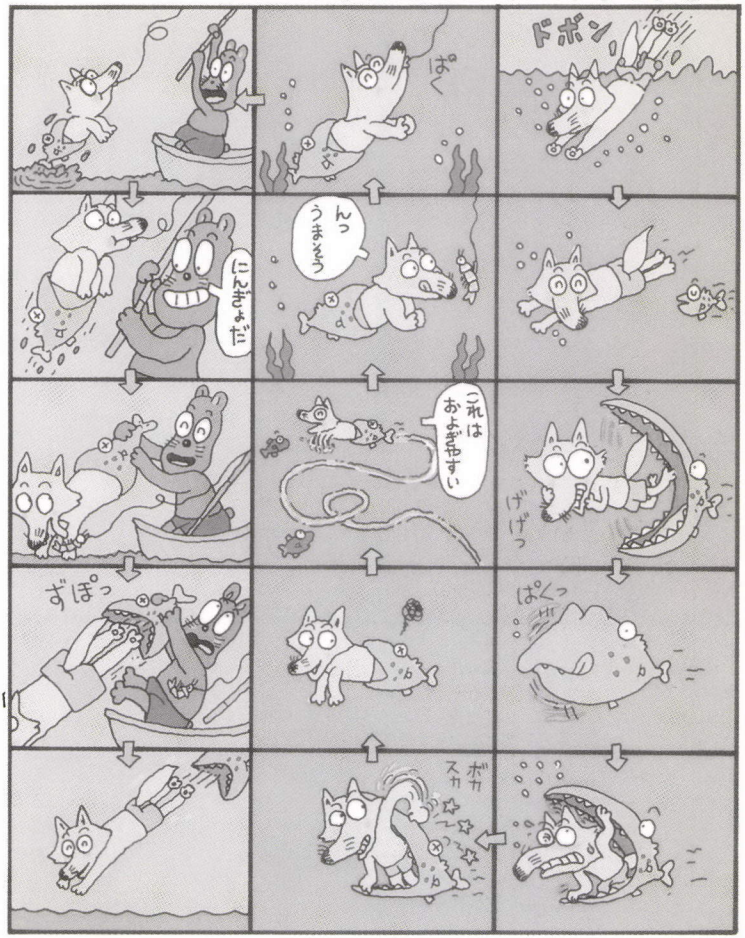
©原ゆたか　2006年　Printed in Japan
ISBN978-4-591-09036-7　N.D.C.913　182p　18cm

落丁本・乱丁本は送料小社負担でお取り替えいたします。
ご面倒でも小社お客様相談室宛にご連絡下さい。
受付時間は月～金曜日、9:00～17:00（ただし祝祭日は除く）

読者の皆さまからのお便りをお待ちしております。
いただいたお便りは、編集局から著者へお渡しいたします。

☆もうひとつおまけのページ☆

●ゾロリちゃんにんぎょになるのまき●



はじめに　もどる

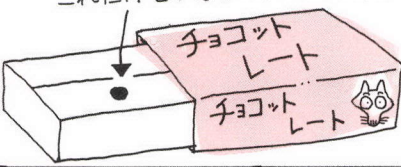
かいけつゾロリのチョコレートじょう

ゾロリからのひとこと

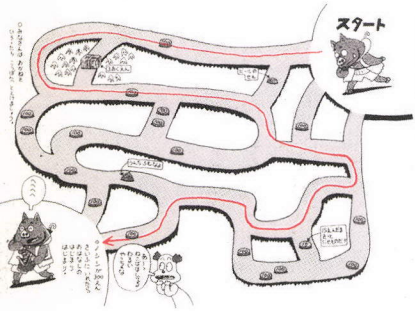
☆この本で おれさまの ペロペロいやしんぼなめを わらったしょくん。きみたちは ポッキーチョコを ペロペロいやしんぼなめして プリッツだけに したことは ないのか？

⊙なかにピーナッツや アーモンドじゃなくて うめぼしのたねが はいっているぞ

⊙大きな はこに チョコレートが これだけ しか はいって いないんだ。

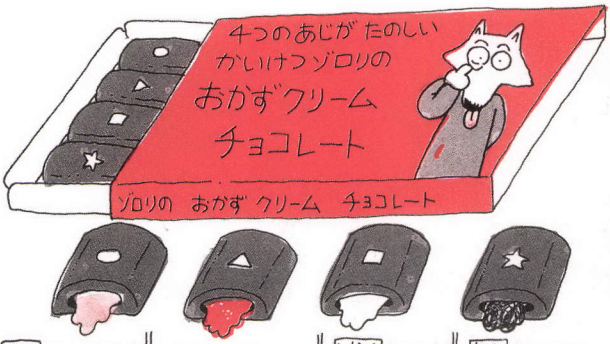


P92-93おまけページ・1のこたえ



P100-101のこたえ

ゾロリのかんがえた いじわるチョコレート



○まるのマークがついたチョコはカレークリームいり

○さんかくのマークがついたチョコはトマトシチューいり

○しかくのマークがついたチョコはコーンスープいり

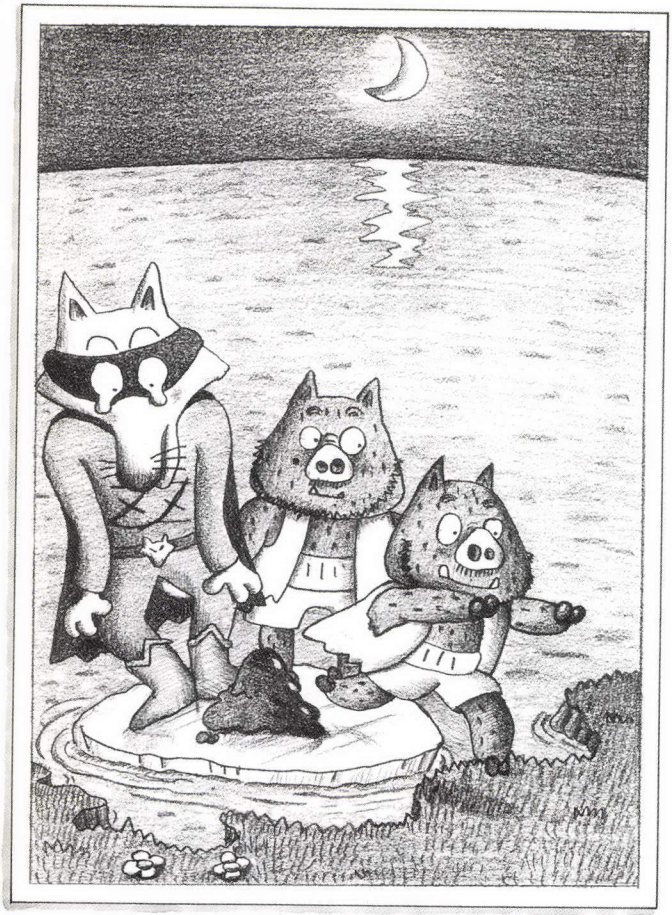
○ほしのマークがついたチョコはのりのつくだにいり

◎おかずとデザートが いっぺんに たべられる
すごい チョコだ!!

⊙チョコレートに くうきを まぜた
かるーいチョコが あるだろ。
おれさまは ふうせんに いれる
ふわふわ ガスを まぜた
チョコレートを つくったんだぜ

チョコレートで
元気をつけて、
今度もいたずら
やったるで――。

おまえたちには、その大きい氷をあげよう。かき氷にでもして、たべなさい。おれさまは、この小さいチョコレートでがまんしてやるからな。
……
……



☆こおりと チョコレートは ちいさく なったけれど
なんとか りくちに たどりついた ゾロリたちの
きねんすべき しゃしんです。

「おい、読者のしょくん、チョコレートが
とけるって、知ってるなら、早いとこ、
おれさまに教えろよ。さっきいった
チョコレート城ごしょうたいの
ことだけどな、ごらんのとおりだ。
なかったことにしてくれよな。
まあ、がっかりすんなよ。またすごい
お城を手にいれて、みんなを
よろこばしてやっから、まってろよ。」

どるどる
どる
だって、いままで
たべたこともない、
おいしいチョコレートが
たべられたんですからね。
ちゅー
せなかにのせてもってかえろーっと
ひらめ
いぼだい
あいなめ
まいわし
まあじ
やまとかます
ししゃも
きんめだい

いつのまにやら、
このとおり。
ゾロリたちは
なさけなくなって、
泣きだしました。
よろこんだのは、
魚たちです。

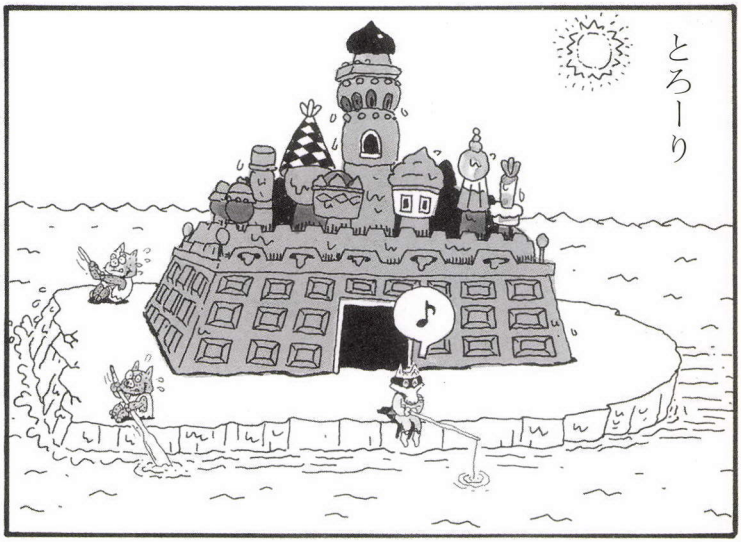
とろけて

とろとろ
とけて……

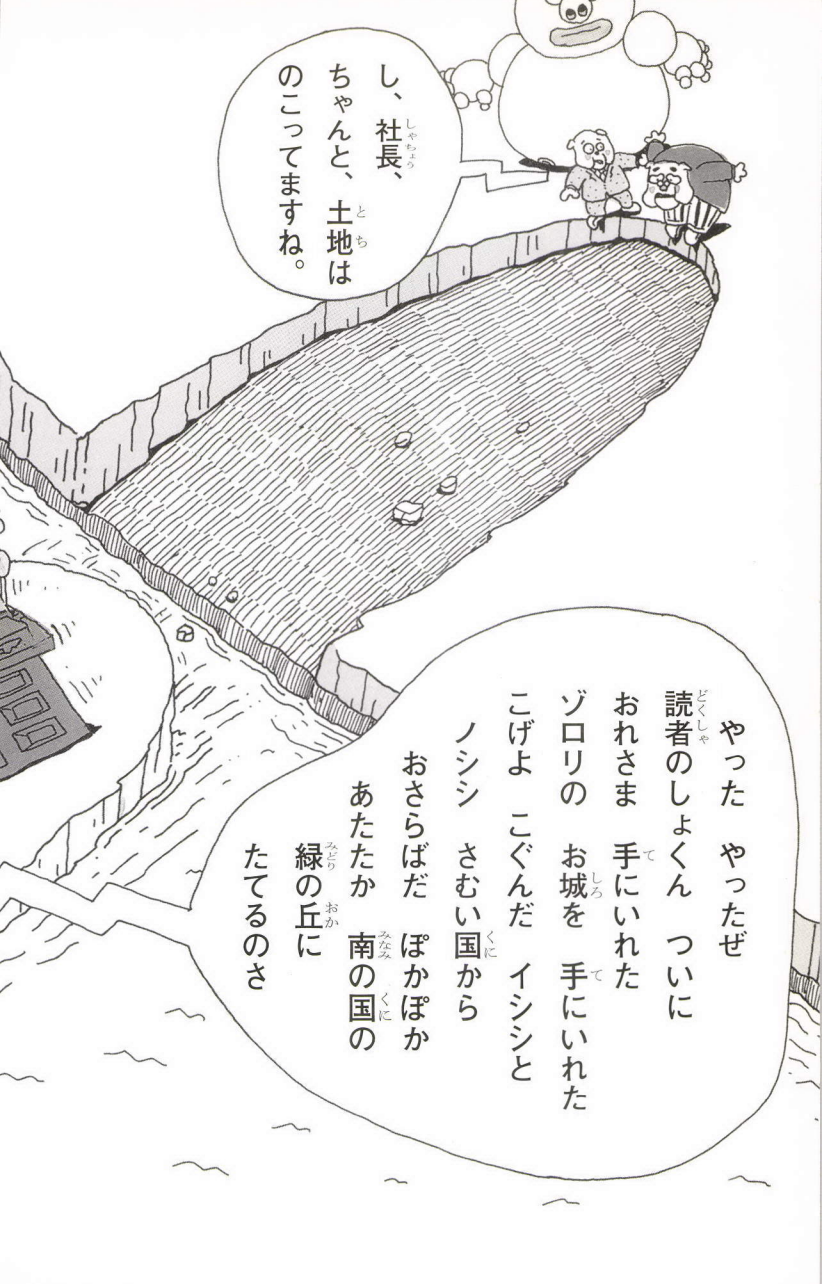
ゾロリたちは、どんどん南にむかってすすみました。

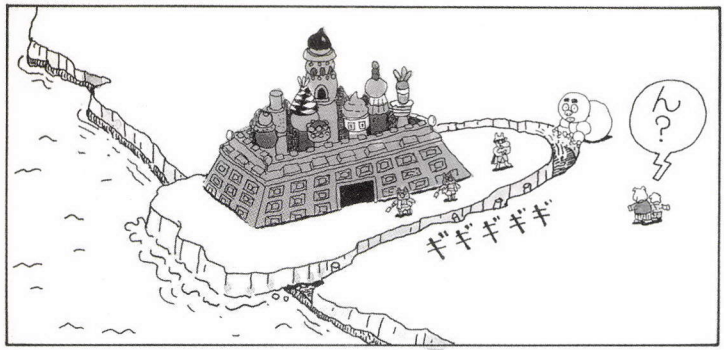
しかしみなさんは、氷もチョコレートも、あたたかくなると、どうなるか、知っているよね。

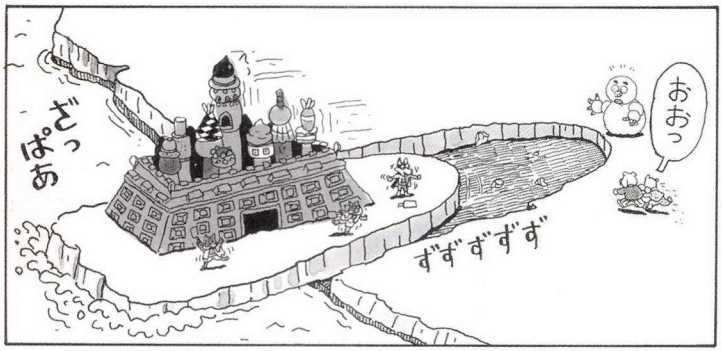
そのとおり！

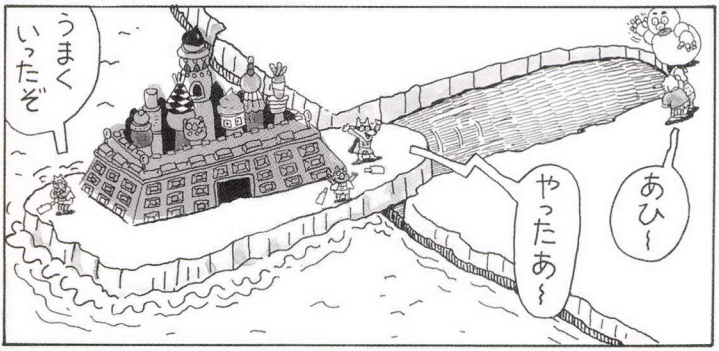


おしろを みなみの くにに
たてたら どくしゃの みなさまを
この チョコレートじょうに
ごしょうたいして
チョコレート たべほうだいの
パーティー ひらくからな
たのしみに まってろよ!!


し、社長、ちゃんと、土地はのこってますね。
やった　やったぜ
読者のしょくん　ついに
おれさま　手にいれた
ゾロリの　お城を　手にいれた
こげよ　こぐんだ　イシシと
ノシシ　さむい国から
おさらばだ　ぽかぽか
あたたか　南の国の
緑の丘に
たてるのさ


ん？
ギギギギギ


おおっ
ずずずずず
ざっ
ぱあ


あひ～
やったあ～
うまくいったぞ

ゾロリたちは、チョコレート城の
まわりの氷を、まあるく
のこぎりで切りだし——

ぎこ
ぎこ
ぎこ
ぎこ
ぎこ
ぎこ

しろだるマンに
海へ
おしだして
もらいました。

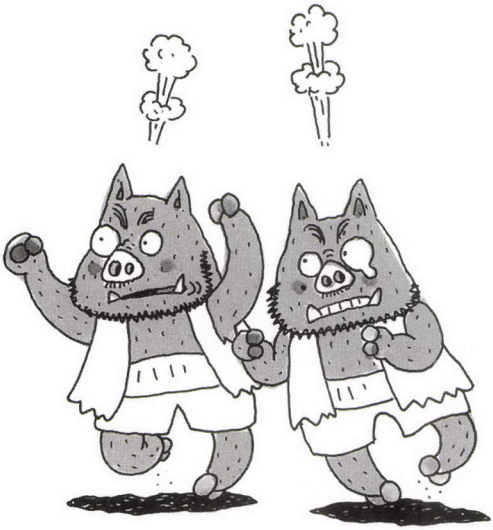
みし
みし
みし
みし

しかしゾロリはすこしもあわてず、
「けっこう、けっこう。こんな、鼻(はな)が
しもやけになるところなんか、
たのまれてもすんでやるもんかい。
このゾロリさまには、いい考(かんが)えが
あるのさ、ニヒニヒ。イシシ、
ノシシ、ちょっと耳(みみ)をかせ。」
さて、ゾロリはどうするの
でしょう。

「チョコレート城をあげると、やくそくしたが、この土地はあげるなんて、いっていないからね。チョコレート城だけ、おもちかえりねがいたいもんだね。さあどうするね、ゾロリくん。」

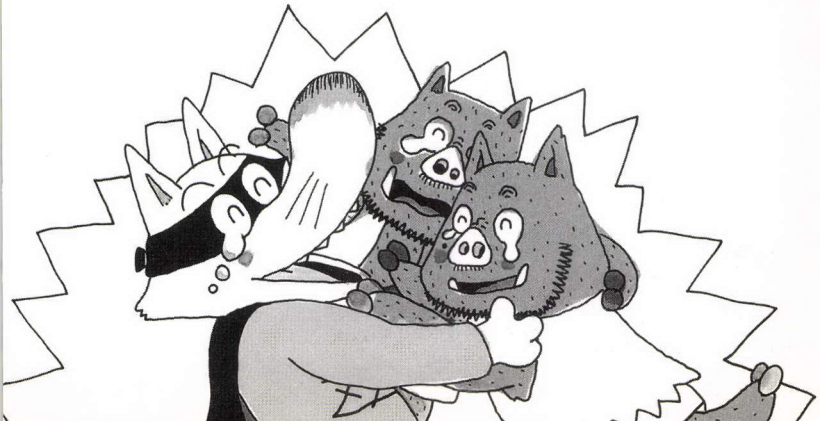
「そ、そんなあ。イシシ、それはずるいよな。」

「そうだよ、そんなのインチキだ!!」

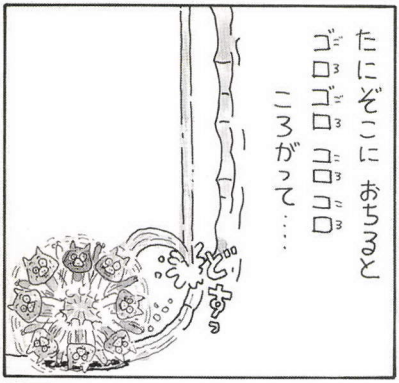


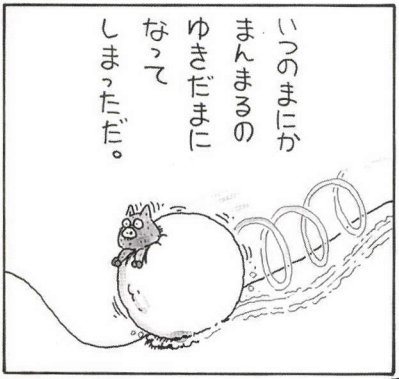
ゾロリは、うれしなみだをふいて
ふりかえり、雪玉の中で、
身うごきのとれないブルル社長に
いいました。
「さあ、これでチョコレート城は、
ほんとにおれさまのものだよな。
社長。」
「わ、わかったよ。わしも男じゃ、
やくそくはまもろう……。
だがね……。」

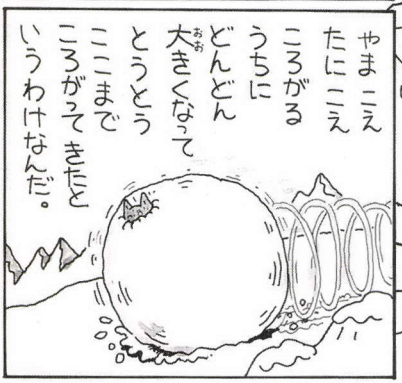
「ノシシ、おらたち、しんぱいしてただぞー。」
「ゾロリせんせー。イシシー、どうもありがとう、わーん。」
ゾロリたちは、かたをだきあい、再会(さいかい)をよろこびあいました。
「またいっしょにいじわるをしような、ノシシ。あっ、そうだ!! わすれるところだった。」



ノシシは、どうして雪玉(ゆきだま)になってしまったのかを、ゾロリたちにせつめいしました。



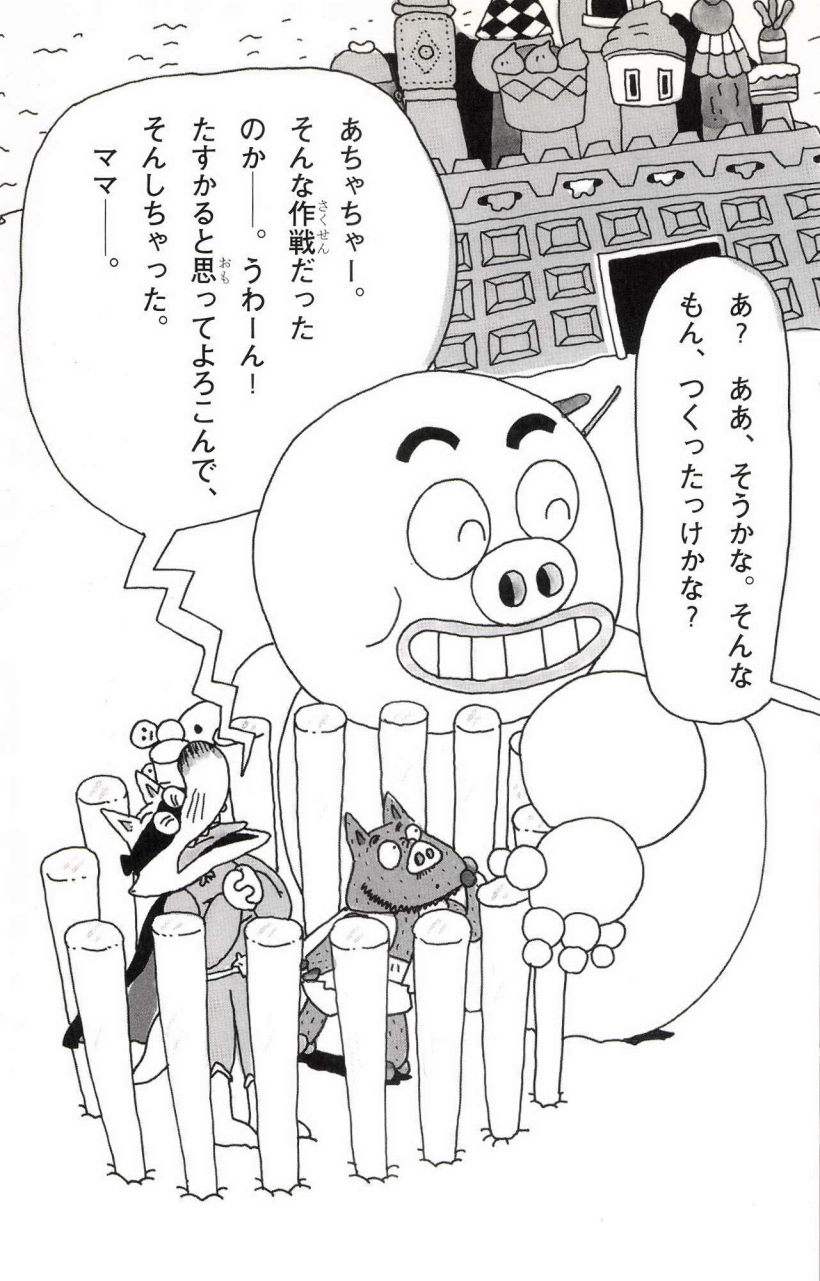




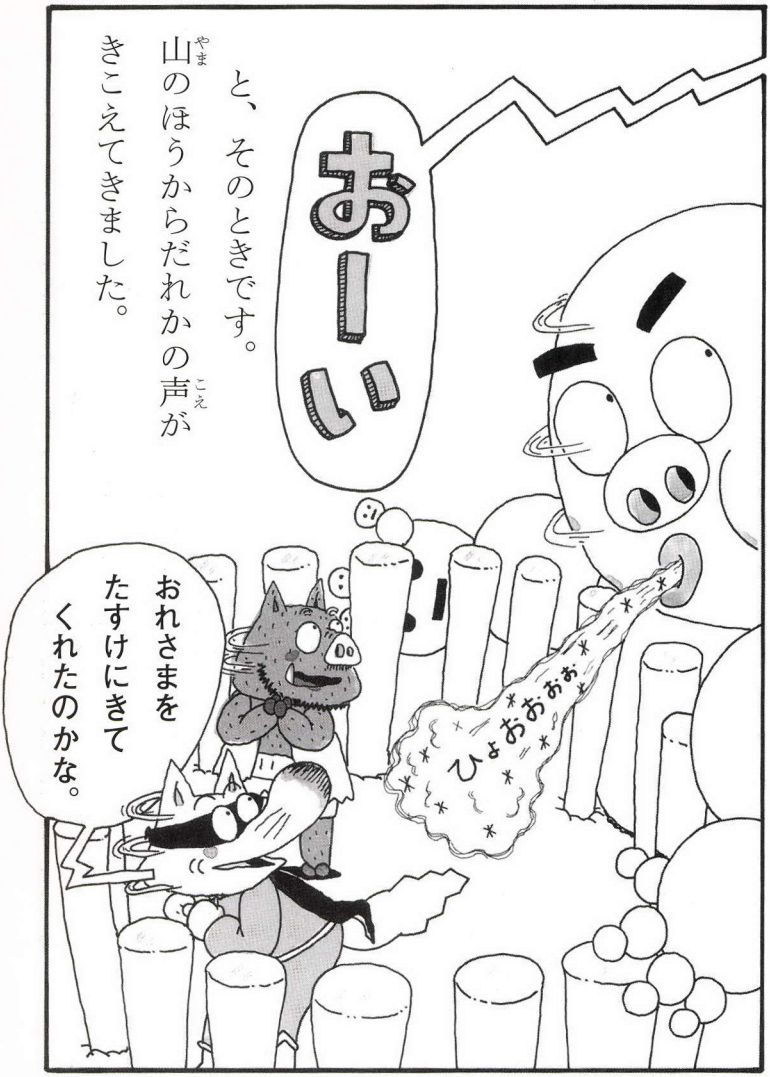
しずかになった雪玉から、
ひょっこり、ノシシがかおを
だしたではありませんか。
「ノシシのおばけだー。」
「ち、ちがうだよ。おら、おばけじゃ
ないだ。ちゃんと生きてるだ。」

ドッ
ゾロリ
せんせー。
ひぇー、目のまえで
とまっただー。
おれさま、
雪玉に
しんせきは
いないぜ。

ところがどっこいです。雪玉(ゆきだま)は、
ブルルとコブルをおしつぶし、
しろだるマンまでもつきとばして
しまったのです。


あ？　ああ、そうかな。そんなもん、つくったっけかな？
あちゃちゃー。そんな作戦だったのか――。うわーん！たすかると思ってよろこんで、そんしちゃった。ママ――。

声のするほうを見ると、しろだるマンの三倍もありそうな雪玉が、こちらにむかって、ころがってくるのです。


と、そのときです。
山のほうからだれかの声がきこえてきました。
おーい
ひょおおおお
おれさまをたすけにきてくれたのかな。

れいとう光線をふきかけられたゾロリたちは、しっぽのさきからこおっていきます。

ああ、このまま氷のちょうこくになってしまうのでしょうか？

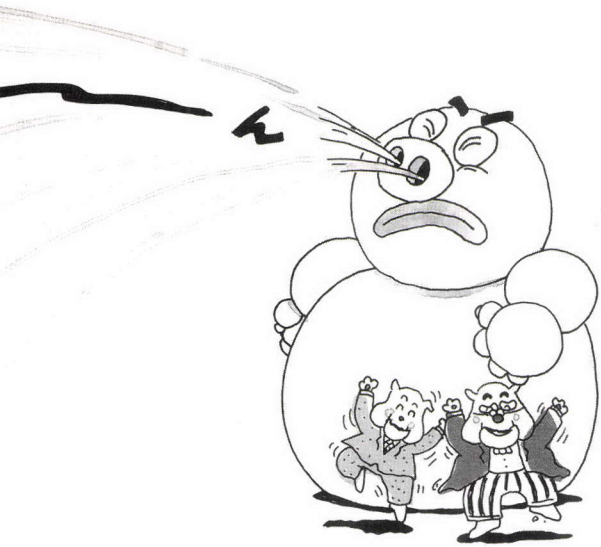
「だめだめ、
ブルルチョコの『あたり』の
ひみつを知ってしまった
きみたちには、いなくなって
もらわなきゃならんのじゃ。
さあ、しろだるマン、
れいとう光線だ!!」

とうとう、ゾロリたちは、つららのおりに
とじこめられてしまいました。

「ガハハハ。もうにげられまい。さてと、しろだるマンの
れいとう光線で、きみたちをカチンコチンに
こおらせてやろうかね。」

「チ、チョコレート城はあきらめるから、
たすけてくれー。」

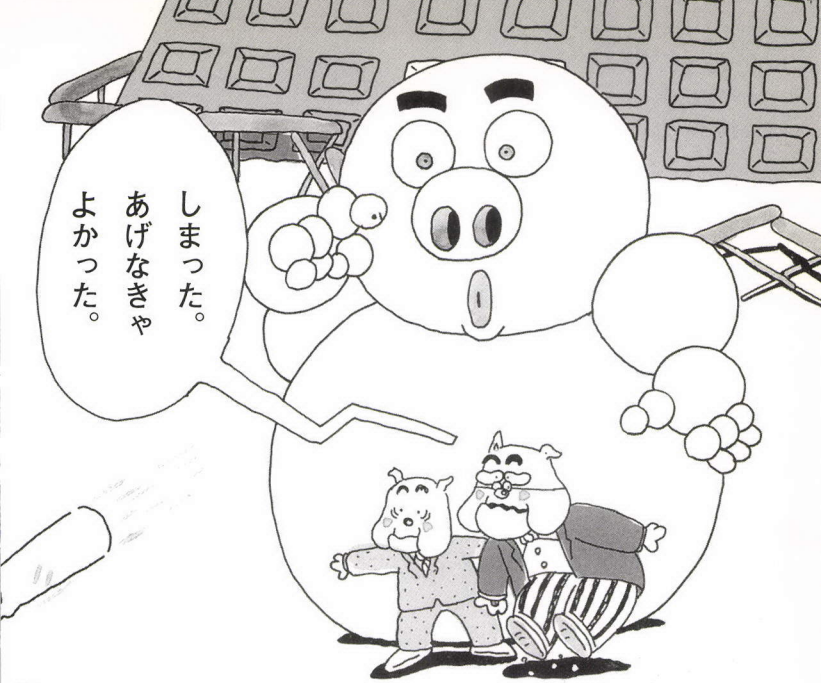
あわてず、ふたつの鼻(はな)のあなから、つららロケットをれんしゃしてきたのです。



「ほんとうだ、ゾロリ
せんせ。もうこのライター、
火がつかないだ。」
「な、なんだって。よーし、
こんなときは、やっぱし
にげるが勝ちだぜ、
それー。」
ゾロリたちは、いちもくさ
んに走りだしました。しかし
しろだるマンは、すこしも

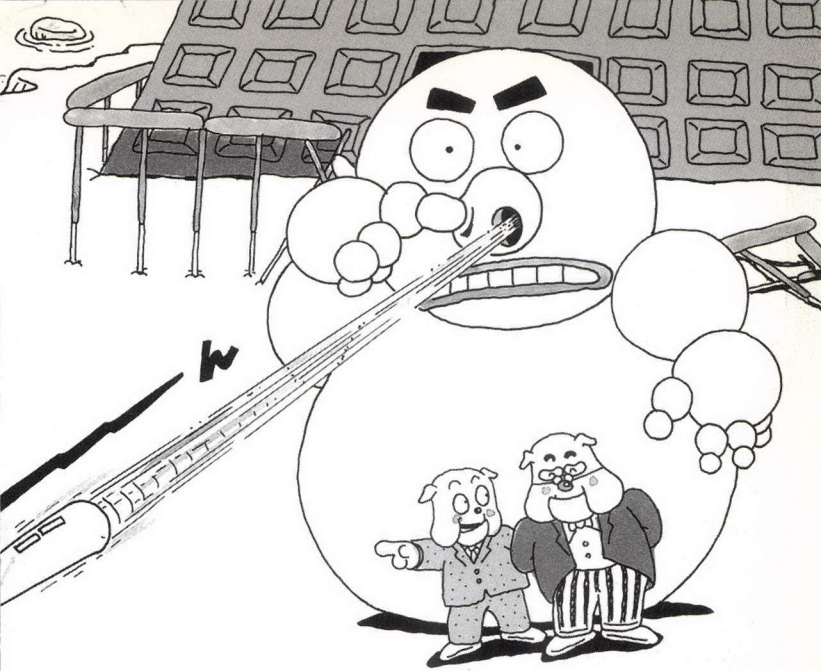
「どうだい、このライター
さえあれば、もうつらら
なんて、こわくはないぜ。」

「おみごとじゃ。
ゾロリくん。じゃがね、
そんなにはげしく炎を
だしたら、ライターは、
ほとんどガスがのこって
いないと思うがね。」



そうです。イシシは
強力(きょうりょく)なライターを
もっていたのです。
ライターのあつい
炎(ほのお)で、つららロケット
を、あっというまに
とかしてしまいました。

ひえーっ。
もうだめだあー。
くしざしだあー。
おっ、そういえば
イシシ、さっき
いいものをもらった
じゃないか。
びゅ



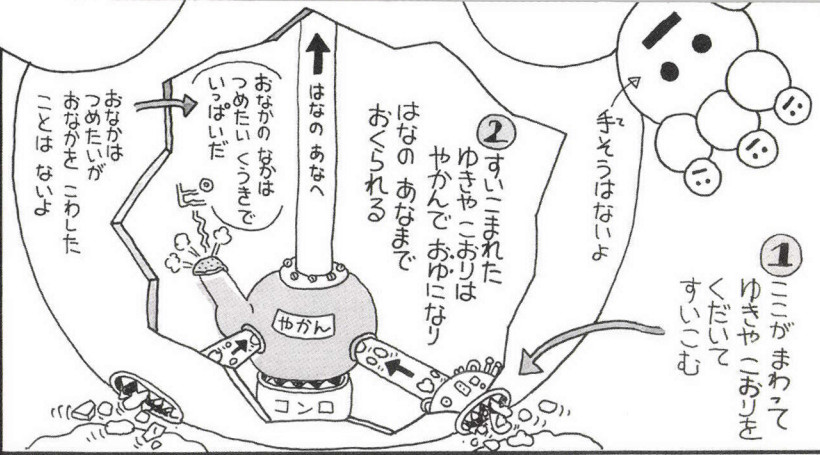
「さあ、しろだるマンよ、
ゾロリたちを
やっつけるんじゃ。」
ブルルがいうと、
しろだるマンは、とくいの、
はなみずつららロケットを、
ゾロリめがけて
はっしゃしました。

れんしゃ

- 2つの はなの あなから つぎつぎと つららロケットを はっしゃ。

スピード2ばい

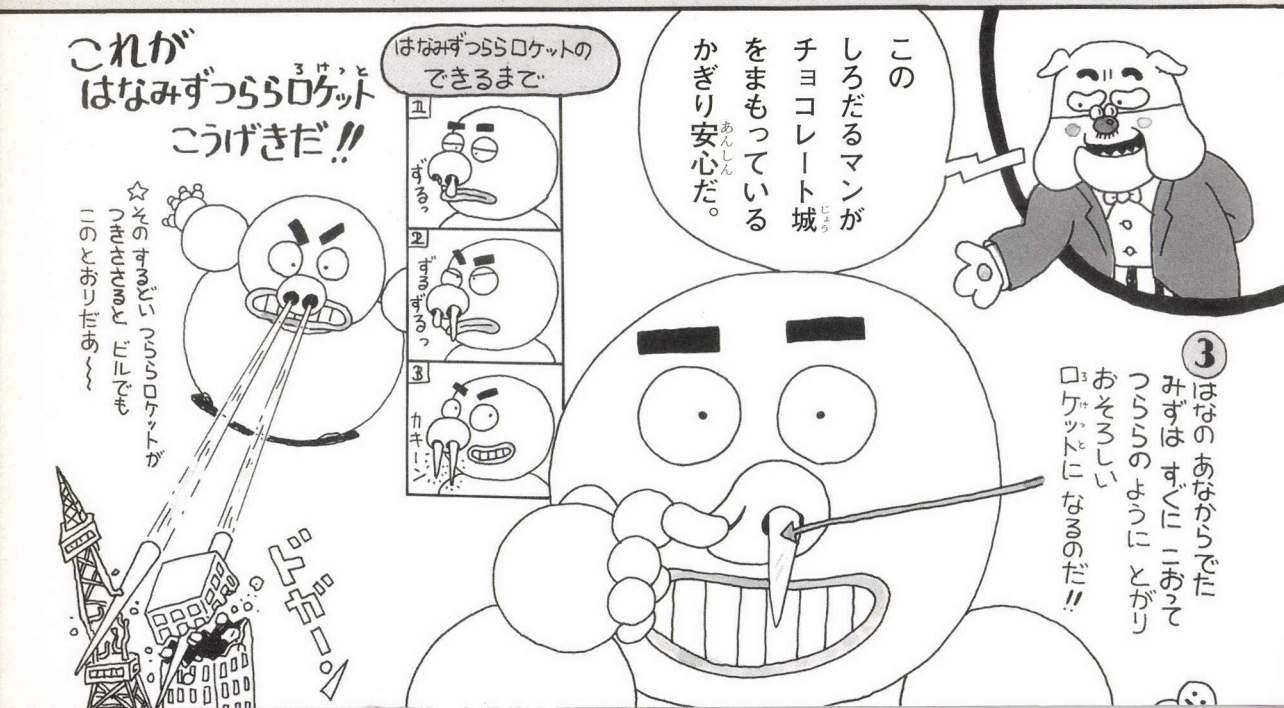
- かたほうの はなの あなを ふさぐと つららロケットは 2ばいの はやさで とんでゆく。



まだまだ あるぞ! しろだるマンの れいとう こうせん

☆おなかの なかの ひえた くうきを 口から はく。この こうせんが あたると カチン・コチンと こおりの ちょうこくに なってしまうぞ。

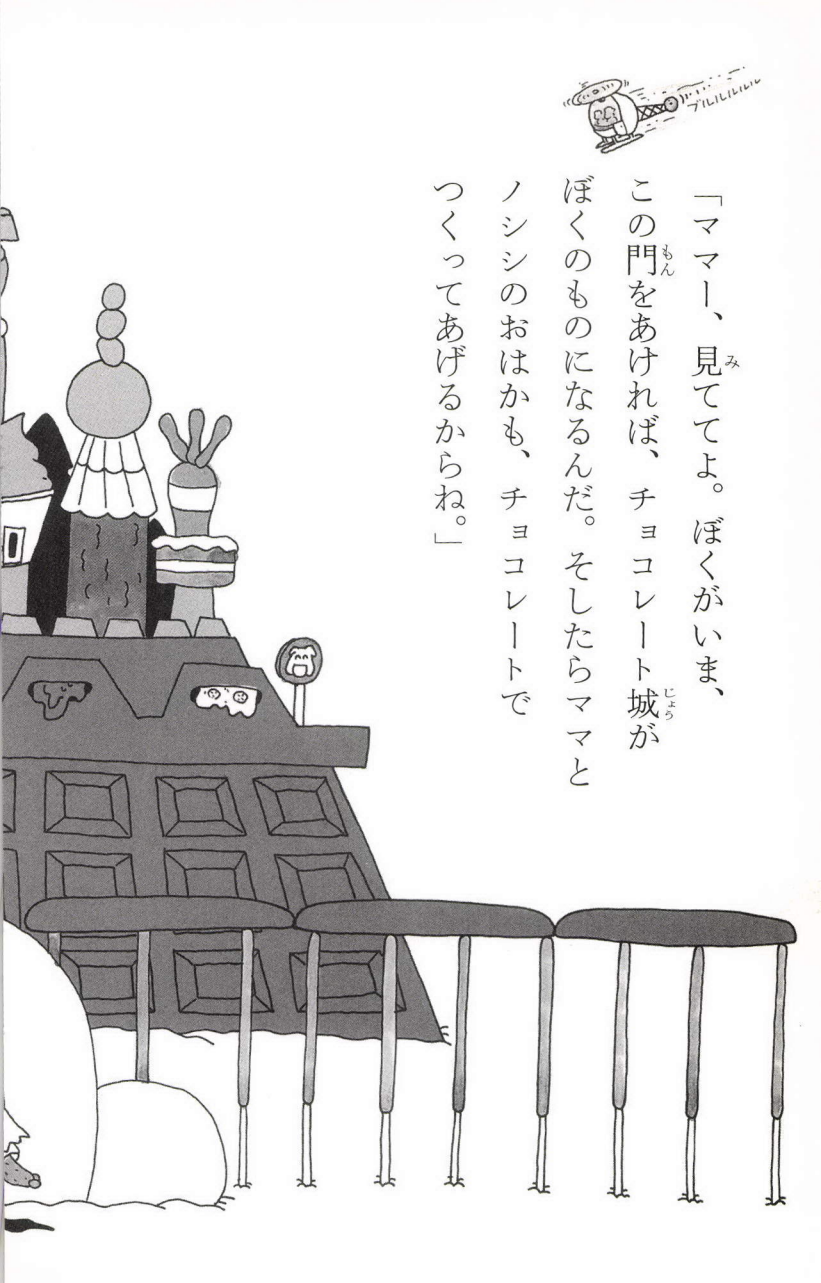
さあ、しろだるマンのひみつメカをのぞいてみよう!!



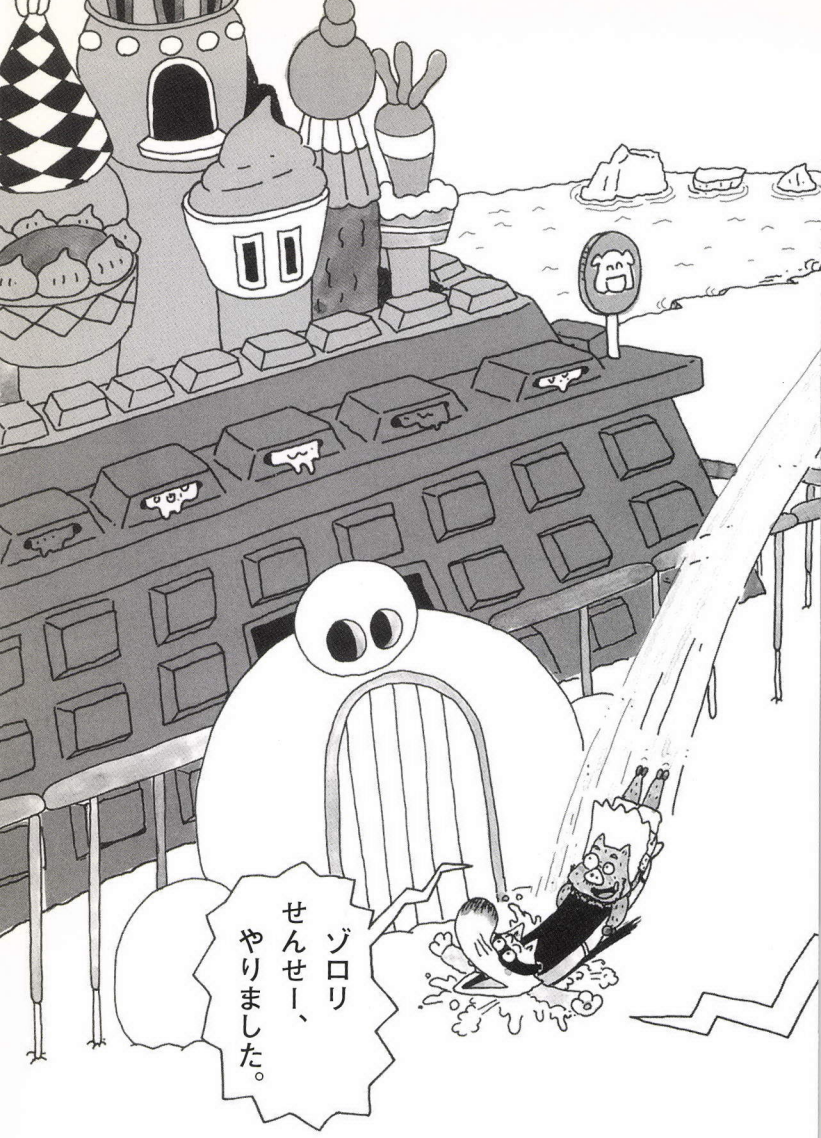
グハハハハ……。
ざんねんだね、ゾロリくん。
きみが門だと思ったのは、
チョコレート城をまもる
ロボット。「しろだるマン」の
かおだったんじゃ。

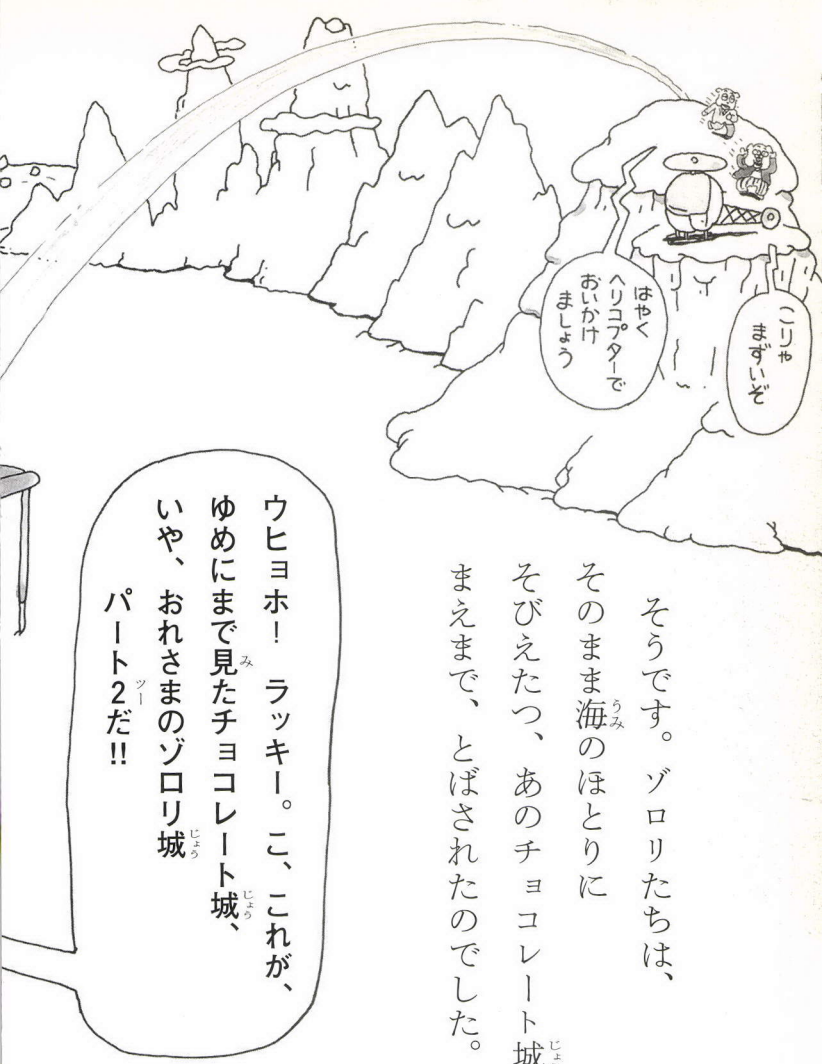
ゴゴゴゴゴゴ――
雪の下から、大きな大きな雪だるまが
あらわれたのです。

ゾロリとイシシが、力をあわせて、
門をあけようとすると――



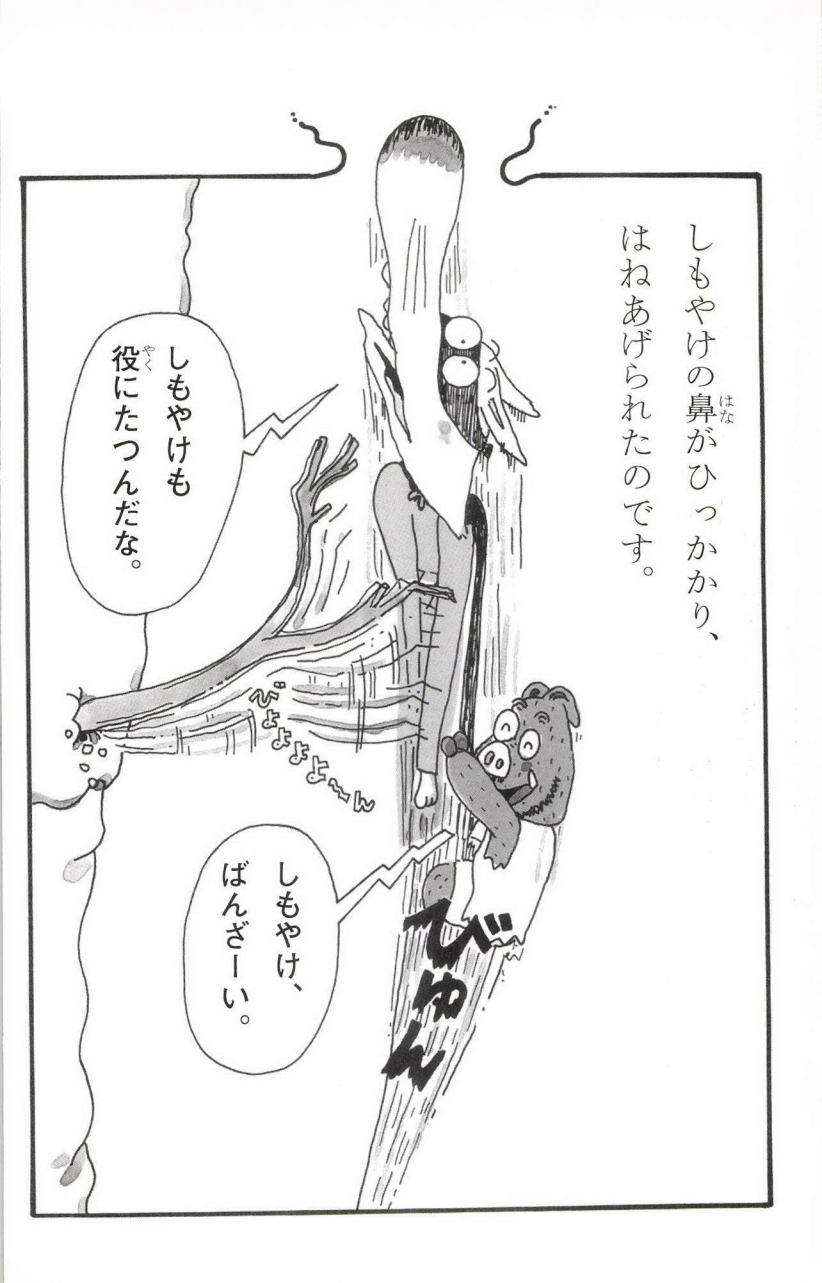
「ママー、見ててよ。ぼくがいま、
この門をあければ、チョコレート城が
ぼくのものになるんだ。そしたらママと
ノシシのおはかも、チョコレートで
つくってあげるからね。」


ゾロリ
せんせー、
やりました。



そうです。ゾロリたちは、
そのまま海のほとりに
そびえたつ、あのチョコレート城の
まえまで、とばされたのでした。

へへへへ。
どうだい、
ゾロリせんせは
すごいだろう。
ひゅー
ななな、なんだ？
なにがおこったんじゃ？
社長、ど、どうしましょう。
チョコレート城のほうへ
とんでいきますよ。


しもやけの鼻がひっかかり、
はねあげられたのです。
しもやけも役にたつんだな。
びよよよ～ん
しもやけ、ばんざーい。
びゅん

ところが、雪山(ゆきやま)から
つきだした木(き)のえだに――

ゾロリたちは、谷ぞこへすいこまれていきました。
ああ、読者のしょくんと、こんなみっともない、しもやけの鼻のまま、おわかれだなんて……。いつものかっちょいいすがたで、おさらばしたかったぜ、グスン。

さようならー。谷ぞこはさむいから、このライターであたたまりなさい。
はは。ゾロリの鼻がしもやけで、あんなにはれてますよ。
わーい、ゾロリせんせー、ライターもらっただよ。
ぶあかもーん。それどころじゃないんだ。おれさまたちは、もういっかんのおわりなんだぞー。

この強力ライターで、雪をあたためたら、あたたかくなるかいな、へへへ。
ごおおおおお
そ、そんなばかな。とけちゃうぜ。

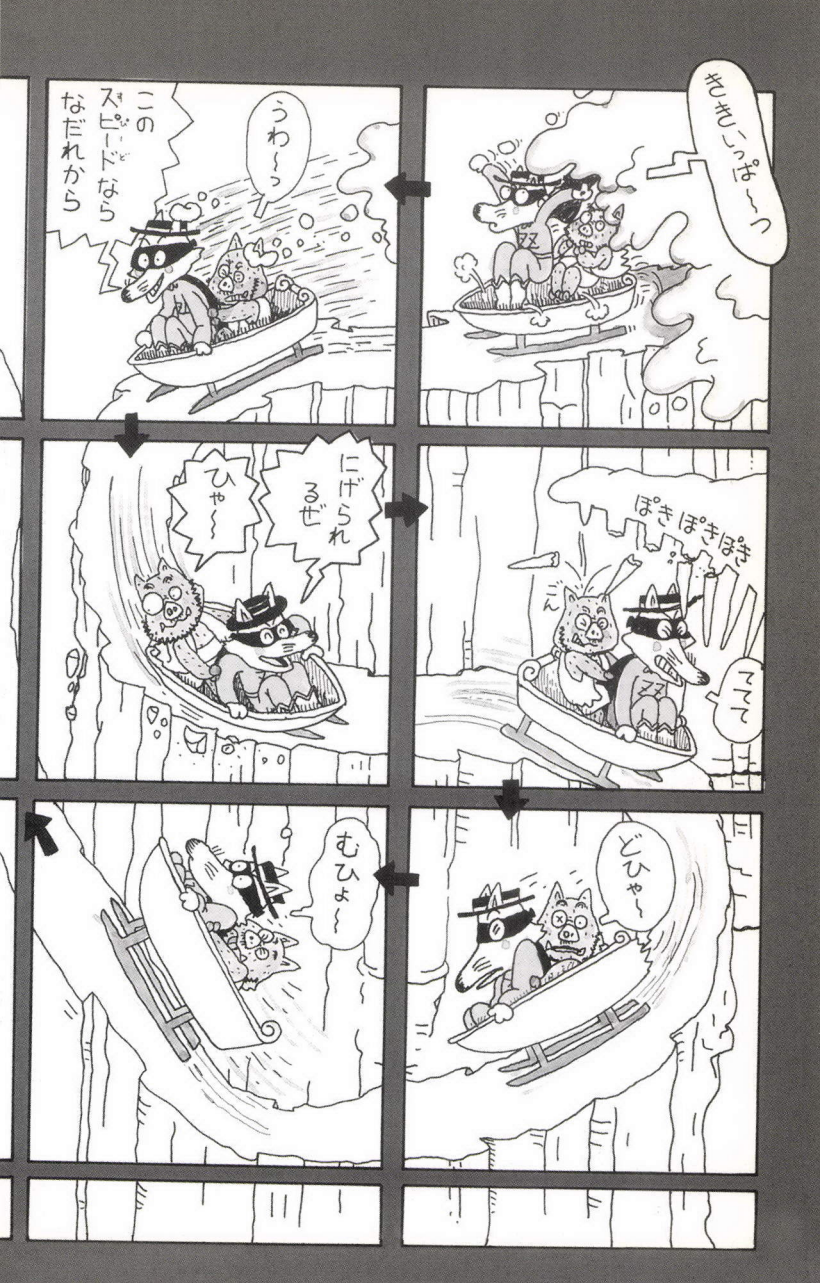
おーい、ブルル社長、たすけてくれよー。鼻がちべたいんだ。
はい。
おやおや、かわいそうに。お鼻がつめたいそうじゃ、コブルくん。あれをだしなさい。

でもね、ゾロリの高い鼻が、雪山につきささったのです。
ありゃ！
だけどこのままじゃ、鼻がしもやけになっちゃいますよ。
ずぽっ
あひゃー たすかった。
ゾロリせんせ、すごーい。

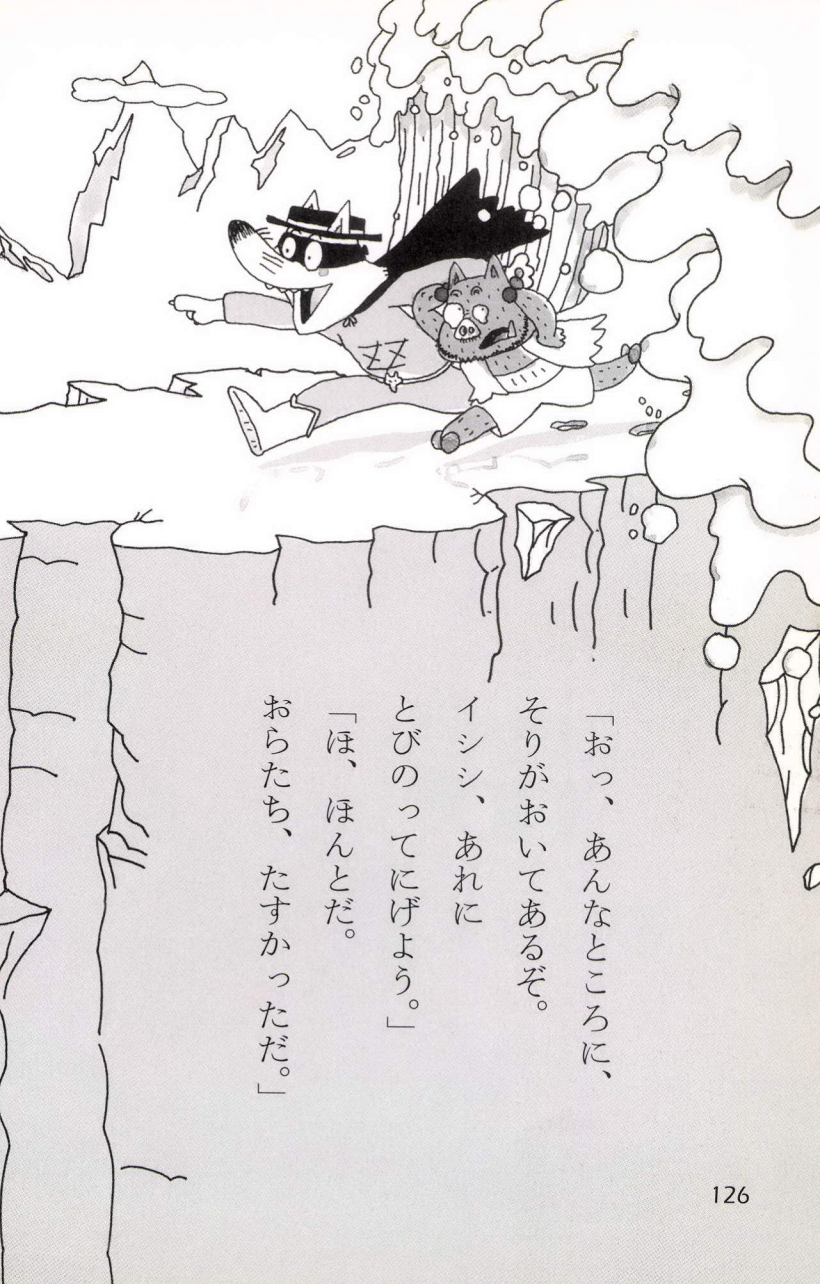
すぐこのさきに
あるんじゃがね、
ざんねんでした。
バイバイ。

あっ、ブルル社長！
やあ!! おひさしぶり。でも、またおわかれじゃね。チョコレート城は、
びゅん
ひゃー、ふかい谷ぞこ！

だはあ
あれ〜
ぎゅーん
ぶしゃ〜
うぎょ〜
はらほろひれ〜
ぎゃはあ〜
みちが
ない〜


ききいっぱ〜っ
うわ〜っ
このスピードならなだれから
ぽきぽきぽき
ごん
てててて
にげられるぜ
ひゃ〜
どひゃ〜
むひょ〜

きましたよ。
計画どおりですね。
社長。
ばかなゾロリめ。
そのそりにのったら、
いっかんのおわりじゃ。

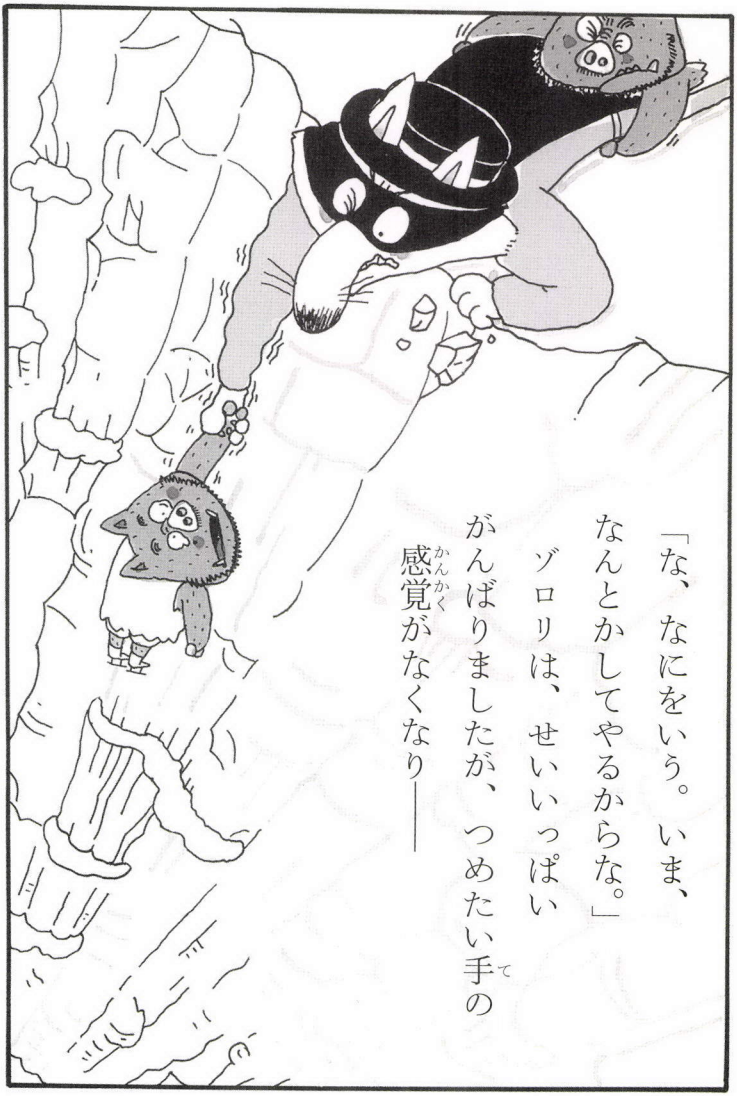


「おっ、あんなところに、
そりがおいてあるぞ。
イシシ、あれに
とびのってにげよう。」
「ほ、ほんとだ。
おらたち、たすかっただ。」

ああ、なんて
ついてないんでしょう。
ノシシの大きなさけび声が
山にこだまして、なだれが
おこってしまったのです。

ドドドドドド
うわぁ～

とうとう、ノシシの手がはなれてしまいました。
す、すまん。ノシシ。おまえのことはわすれないぜ。
ノシシー！
ゾロリせんせー、さようなら――！



「な、なにをいう。いま、
なんとかしてやるからな。」
ゾロリは、せいいっぱい
がんばりましたが、つめたい手の
感覚がなくなり――

ゾロリせんせ。
おらのことはかまわず、
手をはなしてください。
このままでは、ゾロリせんせ
まで、おっこちて
しまうだ。

ゾロリはききいっぱつで、ノシシの手をつかみました。

そのゾロリを、イシシががっちりつかみます。

「がんばれよ、ノシシ。いま、ひきあげてやるからな。」

でも、このさむさで、手はかじかみ、おなかもひえて、力がはいりません。

ノシシ
あぶなーい！
ゾロリ
せんせ〜〜

ノシシは、さっそくくつを
はいてみました。

うーん、足があったかだ。

ところがくつのそこから、いきなり
スケートのはがとびだしたのです。

ありっ！

おい、ノシシ。
そっちはがけだぞ。
近づくなよ。

で、でも
ゾ、ゾロリせんせ、
こ、このくつが、
す、すべるんです。

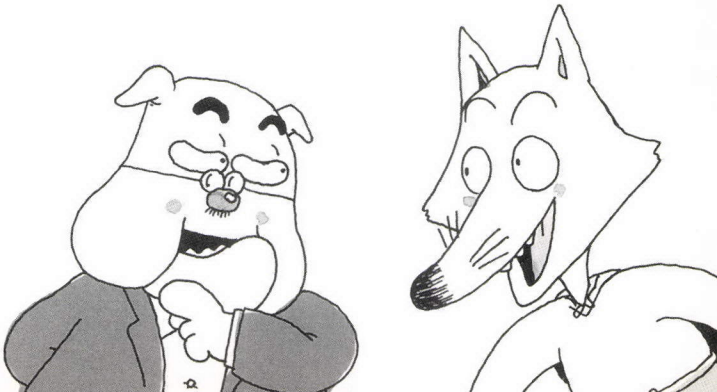
つるるるるる

ようこそ
チョコレートじょうの
スタートちてんは
ここです!!
♥やさしいブルル社長からの
とくべつサービス
みなさん おさむいでしょう
したにおいてある くつを
はいて あたたかくして
しゅっぱつしてね
キケン
このたてふだのうしろはがけです、
おちないように、きをつけましょう。
うひゃあ、
おいイシシ、見て
みろよ。ありがた
いなあ。このくつ、
もらおうぜ。

ゾロリたちは、北へむかって三日間、
歩きっぱなしに歩いて、歩いて、やっと、
スタート地点へたどりつきました。

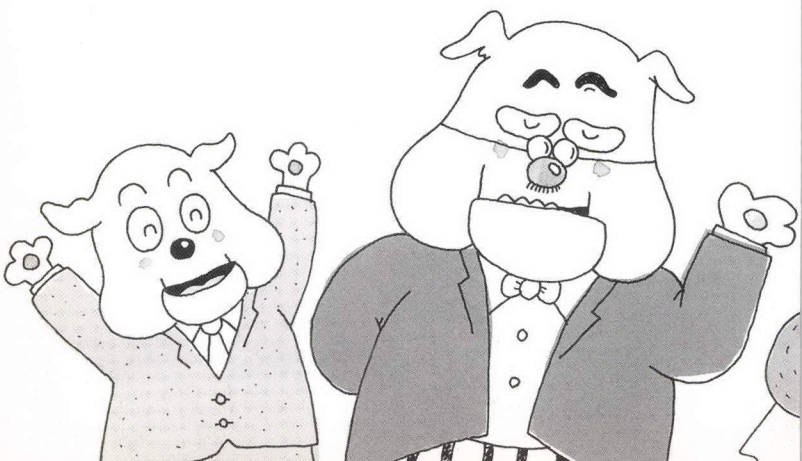
社長、こ、こまりましたね。
うーむ。あたるなんて思わんかった。世の中には、いやしんぼなたべかたをするやつもいるもんじゃわい。さあ、ゾロリたちがやってくるまでに、いろいろなしかけをつくって、チョコレート城をとられないようにしなくちゃならんぞ。

「ニヒニヒ。なーんだ、ただ
チョコレート城へ、たどりつけばいいのか。
そのぐらいのどりょくはしてやる。」
「ここから、北へ三日ほど歩くと、お城への
スタート地点がある。そこからは、
きみたちの力でチョコレート城に
たどりついてくれたまえ。わしは、お城で
まっておるぞ。じゃ、しつれい。」
ブルルとコブルは、屋上のヘリコプターに
のりこみ、北へむかってとびたちました。

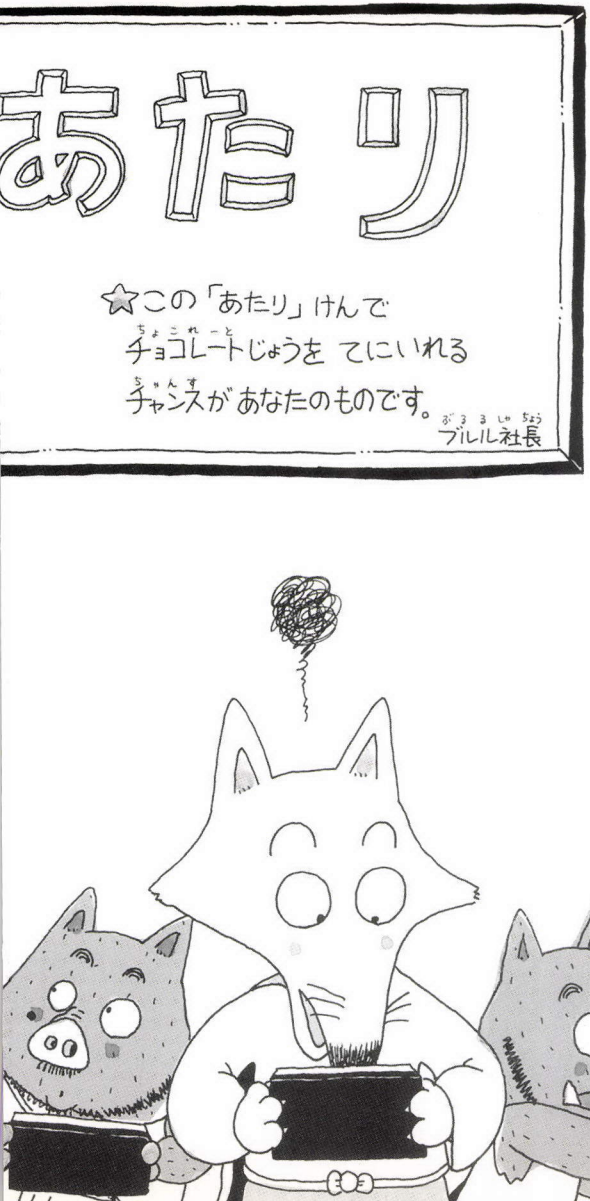


「チ、チャンスだって？」

「そう、そのとおり。わたしどものお城は、北のさむーい海のほとりにたっているのじゃよ。そのチョコレート城にたどりつき、入り口の門をあけた勇者に、お城をさしあげようというわけじゃ。」

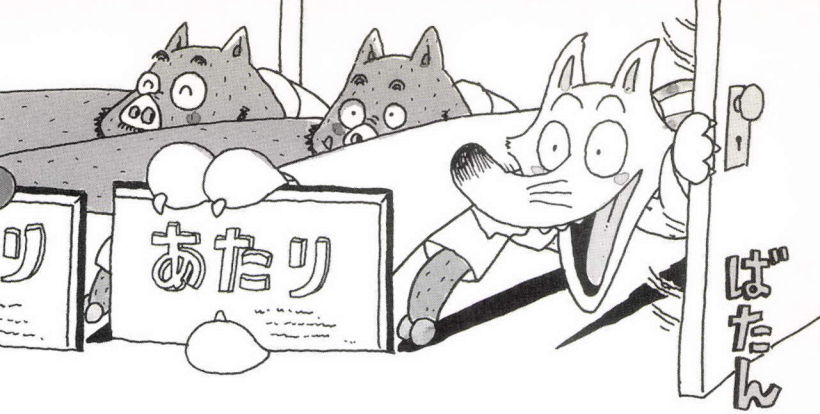


な、なんと、「あたり」の文字の下に、小さな字で、こう書いてあったのです。



「社長、ど、どうしましょう。」
「だ、だいじょうぶだ。コブルくん、しんぱいするな。ゾロリくんとやら、そのホワイトチョコをよーく、見てくれたまえ。」

「ん？　な、なんだって！」
ゾロリは、じっくりと、ホワイトチョコを見つめました。



「ほーら、ブルル社長。あたった、あたった、あたりましたよ。」

ゾロリが、おどりながら、社長室へはいってきました。

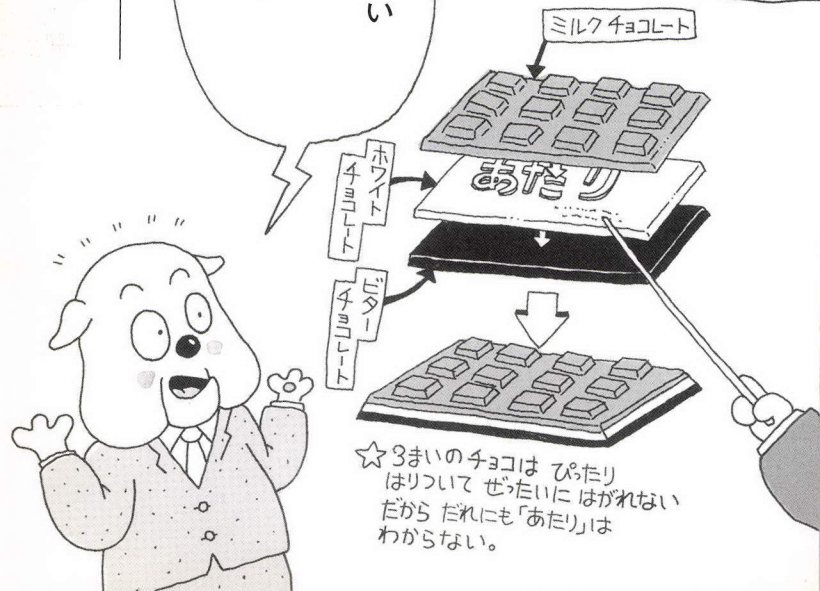
「そうさ、ゾロリせんせが、下品な、いやしんぼペロペロなめを教えてくれて、三人とも大あたりだ。」

イシシがとくいげにいうと、コブルはまっ青なかおになり、

だからな、みんなは気づかずに
はずれだと思って、パリポリ
かじっちまうじゃろ。だれも、
自分のチョコがあたりだった
なんて、思わないのさ。

しゃちょー。す、すんばらしい
アイデアです。これでお城も
とられないし、チョコレートも
がっぽり売れますものね。

ふたりで、にこにこわらっていると——



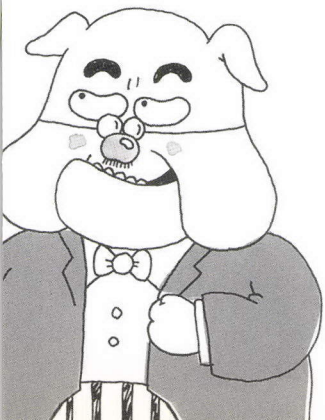
☆3まいのチョコは ぴったり
はりついて ぜったいに はがれない
だから だれにも「あたり」は
わからない。

「ブルル社長、チョコレート城は、わたしどものチョコレート工場です。だれかにあたってしまったら、チョコがつくれなくなるんですよ。」

「コブルくん、しんぱいするな。ブルルチョコは、ぜーんぶあたるが、ぜったいにあたらないんじゃ。」

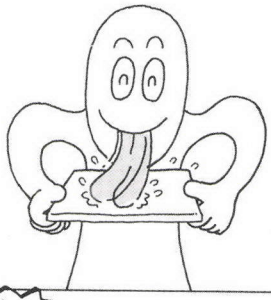
「えっ？　それはどういうことですか？」

じつはな、まん中のホワイトチョコに、『あたり』と書いて、はさんでおいたのじゃ。



三日目

☆さいごにのこった
ホワイトチョコは
あまく　せつない
恋のあじ
ペロペロ　ペロペロ
なめましょね

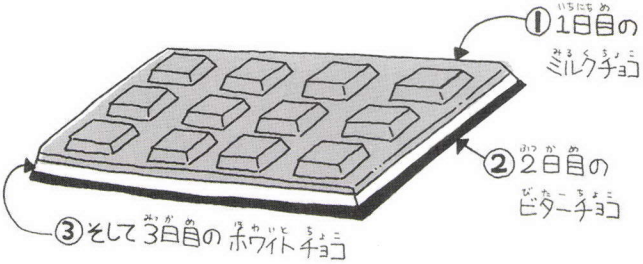


ちゅうい　この　たべかたは
ママに　おしえない　ほうが
よろしいでしょう。
おこられても　せきにんは
もちません。　ゾロリより

こうして三人は、いちばん上のミルクチョコを、
しあわせそうに、ぺろぺろなめはじめたのです。

かいけつゾロリの

ブルルチョコのただしいたべかた



おれさま チョコレートの
ながでも ホワイトチョコには
めが ないのだ

一日目

☆いちばん上の
ミルクチョコ
やさしくとける
ママのあじ

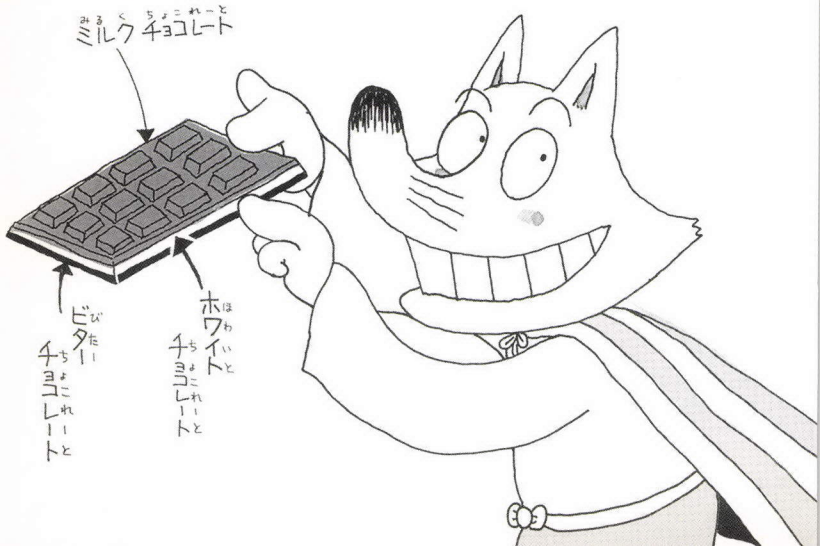
ペロペロ ペロペロ
なめましょね

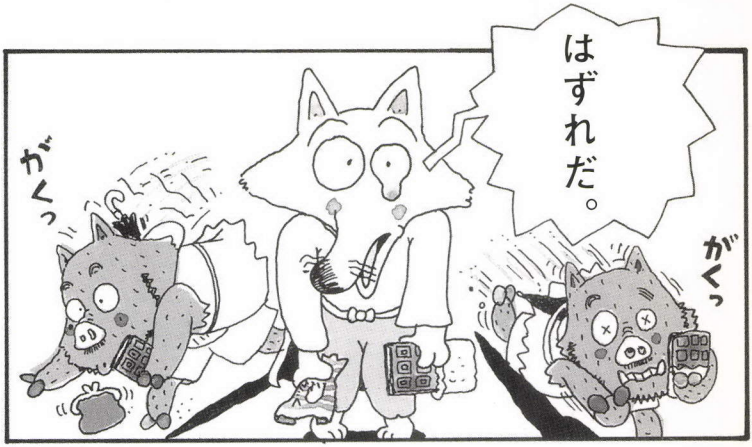
二日目

☆いちばん下の
ビターチョコ
ちょっとにがいが
おとなのあじよ

ペロペロ ペロペロ
なめましょね

ホワイトチョコがはさんであるだろ。
こういったチョコはだな、
三日間たのしめる、ありがたい
チョコなのだ。このチョコの
たべかたを、イシシとノシシ、
そして読者のみなさまにも、
教えてあげよう!!」





ああ、ゾロリ城パート2のゆめは、はかなくきえてしまいました。

「おら、頭にきただ。このブルルチョコ、バリンボリンとやけぐいしてやるだ!!」

イシシがいうと、ゾロリが、

「ぶぁっかもーん。このチョコをよこから見てみろ。まん中に、

さあ、ゾロリのチョコレートはどうでしょう。

ニヒニヒ

おれさまもあけるぜ。

どきっ

どきっ

うおお――こ、この、チョコレートは――

ゾロリ

イシシのチョコレートは……
なにもはいってないよー。
はずれみたいだ。
フルーツチョコ

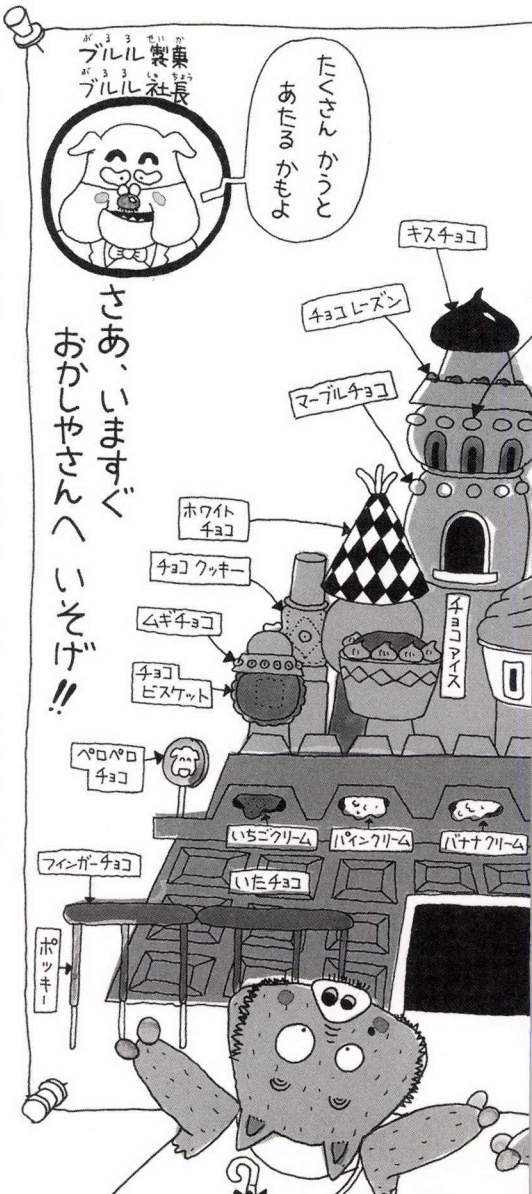
ノシシのチョコレートは……
おらのも、だめみたいだ。
あーあ、やっぱしはずれだ！
フルーツチョコ

さて、チョコレート城は、だれにあたるかな？

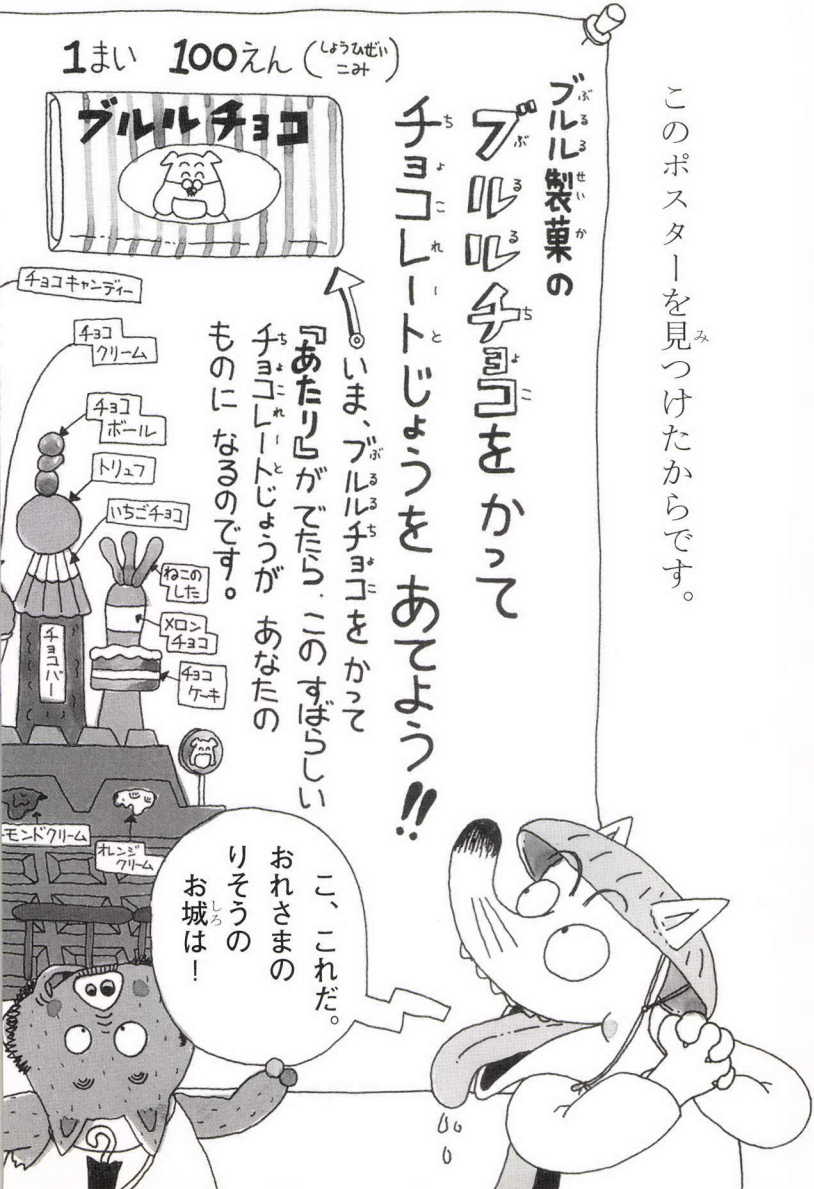
ゾロリたちは、おかし屋さんへとんでいきました。

おかしの中から、上のブルルチョコを三まい、さがしてね。るいじ品に気をつけるんだよ。

ゾロリは、チョコレートがだあーいすきなのです。
チョコレートとお城がいっぺんに手にはいるなんて、
ゆめのようなことです。



このポスターを見つけたからです。



おらたち　子分の
イシシと　ノシシ
ゾロリせんせの　ためならば
たとえ　谷ぞこ　雪の中
ゾロリの　お城を　たてるため
ついてゆきます　どこまでも
スッポコ　ペッポコ
ポコポコピー

と、ごきげんでうたっていた三人がうたうのを
やめて、思わず立ちどまったのは——

ぽかぽかと気もちのいい午後を、いっぺん
にぶちこわしたのは、いたずらのしゅぎょうに
でたゾロリたちの歌声です。

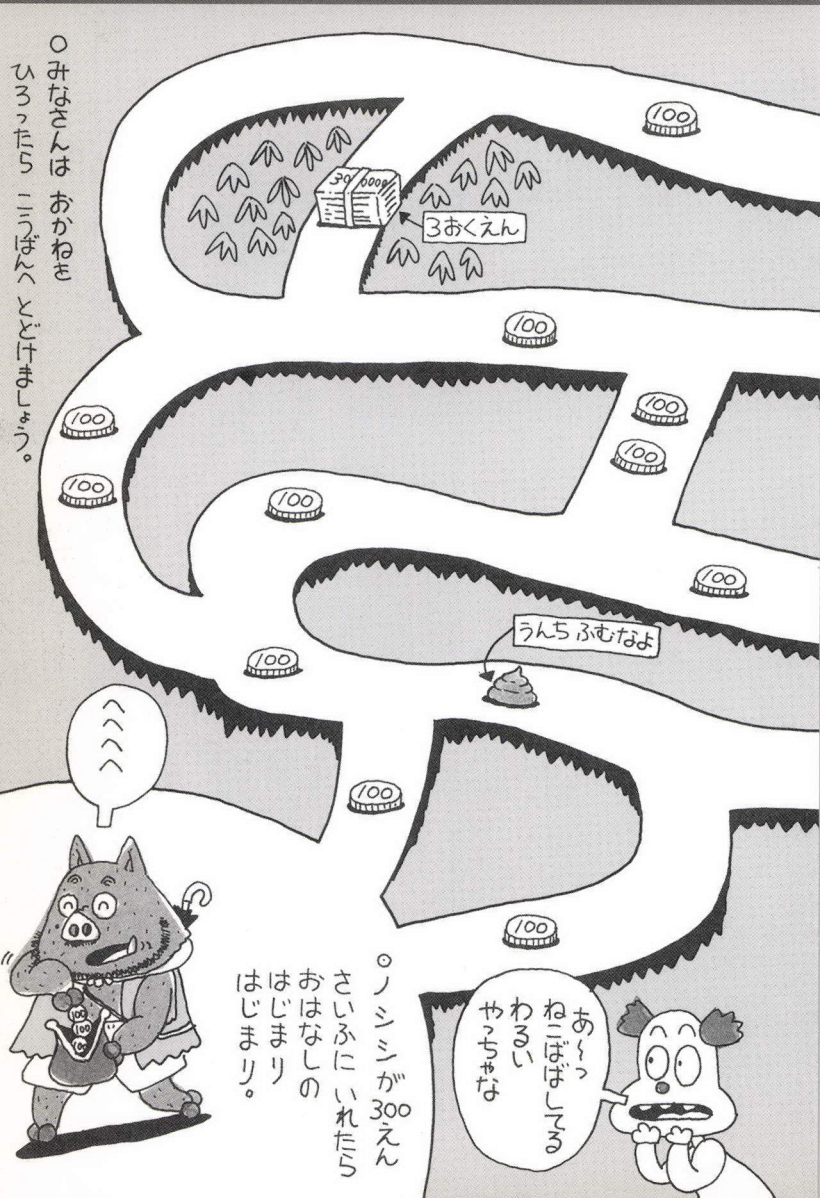
かいけつゾロリのチョコレートじょう

おれさま、もてもてだから、バレンタインデーには、こーんなにチョコレートがとどくんだぜ。

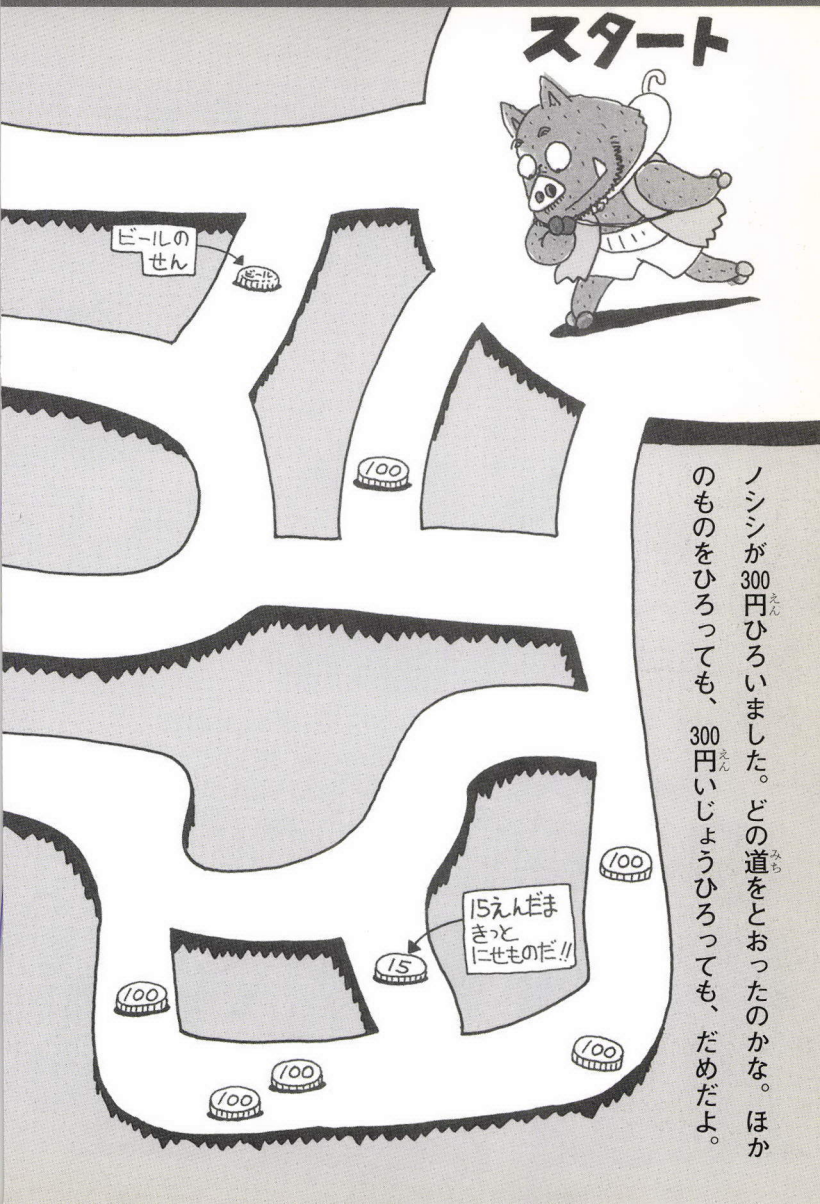
ほんとは、自分で、買ってきただよ。
みんなの愛を、むだにしないよう、ぜーんぶたべちゃおう。

おいチョコレートたべすぎると、鼻血がでるって知ってたか？
ぶー
ぶー

かいけつゾロリのチョコレートじょう



いきなりですが…☆おまけページ・1



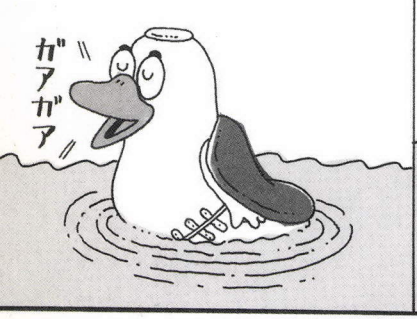
ノシシが300円ひろいました。どの道をとおったのかな。ほかのものをひろっても、300円いじょうひろっても、だめだよ。

かいけつゾロリのゆうれいせん

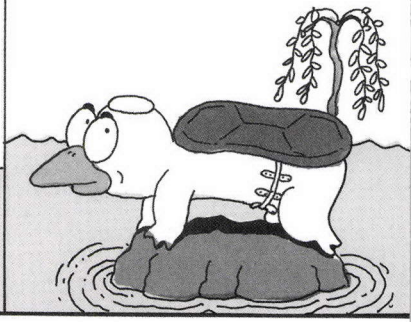
大がっぱ

☆あたまの でんきのこぎりを しゅうりに だしてあるので
なおるまで きみたちの ちかくの いけで……

・あるときは アヒルに ばけて
かくれています。

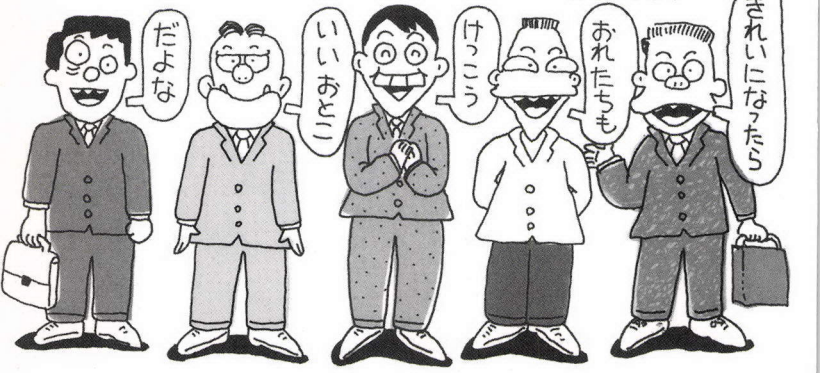


・あるときは かめに ばけて
かくれています。



ゾンビのみなさん

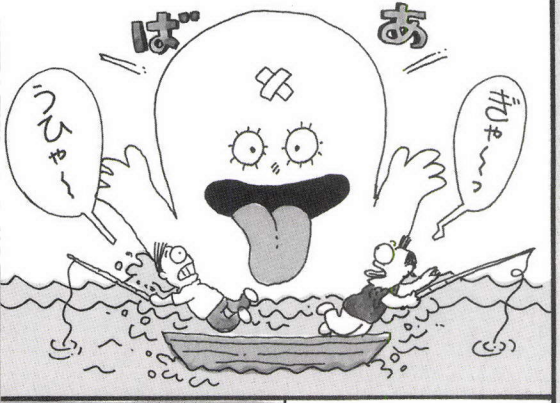
☆200ねんぶりに おふろに はいって さっぱりしたので
びょうきも なおり ふつうの サラリーマンに ばけています。
きみの おとうさんと いっしょに はたらいてるかもよ。

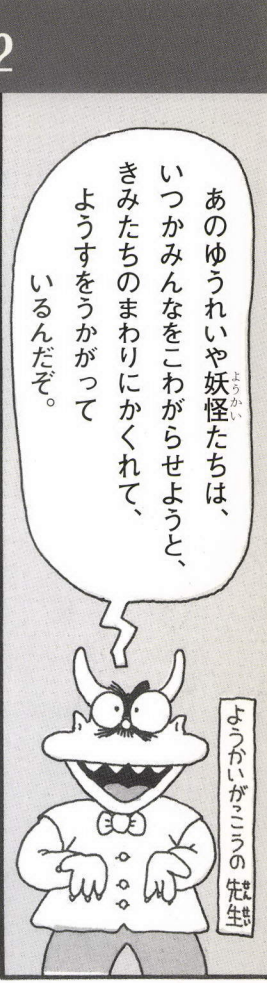


☆おまけページ・2

うにぼうず

☆まるぼうずになった うにぼうずは いま
うみぼうずとして かつやくちゅう。





ゆうれい電気くらげ

☆2ひきは
すいぞくかんに かくれて
います。

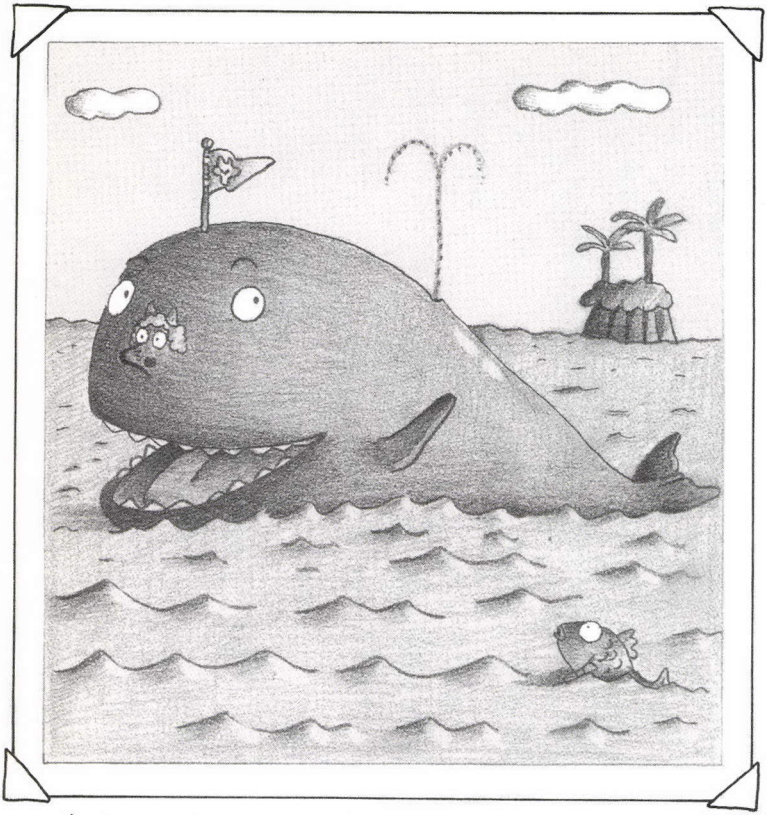
☆3びきは まだ
うみを ただよっています。

☆2ひきは ネオンサインに ばけて
かくれて います。

☆3びきは デパートのしょくどうで
ラーメンの みほんを やって
かくれています。

おれはきめたぞ。すてきなおよめさんとけっこんして、りっぱな男になってみせるぜ。
ゾロリせんせ、おわびのしるしに、おらのおこづかいでチョコレート買ってあげるから、きげんをなおしてくださいよ。
えっ、チョコレート買ってくれるの？

ゾロリたちは、おふろにのって、やっとのことで海岸にたどりつきました。



☆もし　うみで　ゾロリの はたが ついた
くじらを みかけたら
『むかし　ゆうれいせんを　やってた
くじらでしょ』って　ひとこと
こえを　かけて　あげてね。

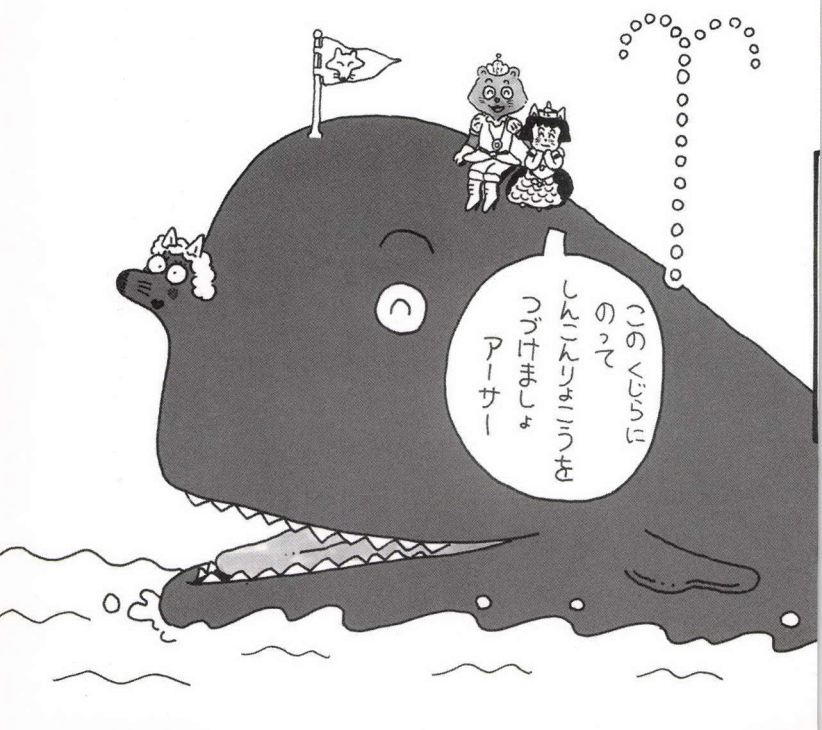
「愛は、男をつよくするだね。」

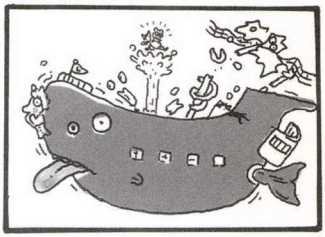
イシシがつぶやくと、

「そ、そのようだな。おれさまも早く、およめさんをもらって、つよい男にならなきゃなあ……。」

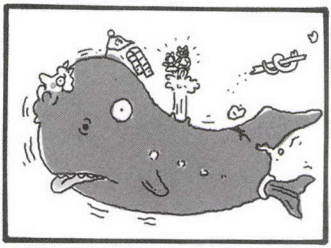
ゾロリは、しあわせそうなアーサーたちを、うらやましそうにいつまでも見つめていました。

だって、
このくじら、
かおのまん中に
ゾロリの人形と、
頭のてっぺんには、
ゾロリのはたが
のこってしまったの
ですから。

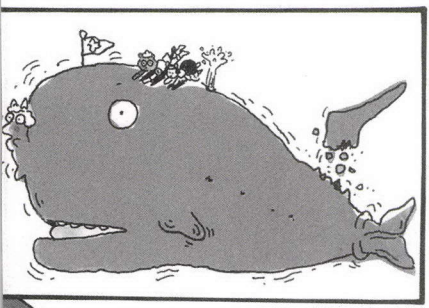


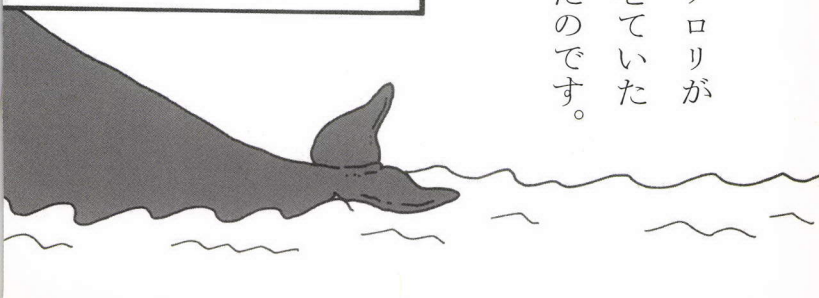


でも、
すべての
まほうがとけた
わけではありません。



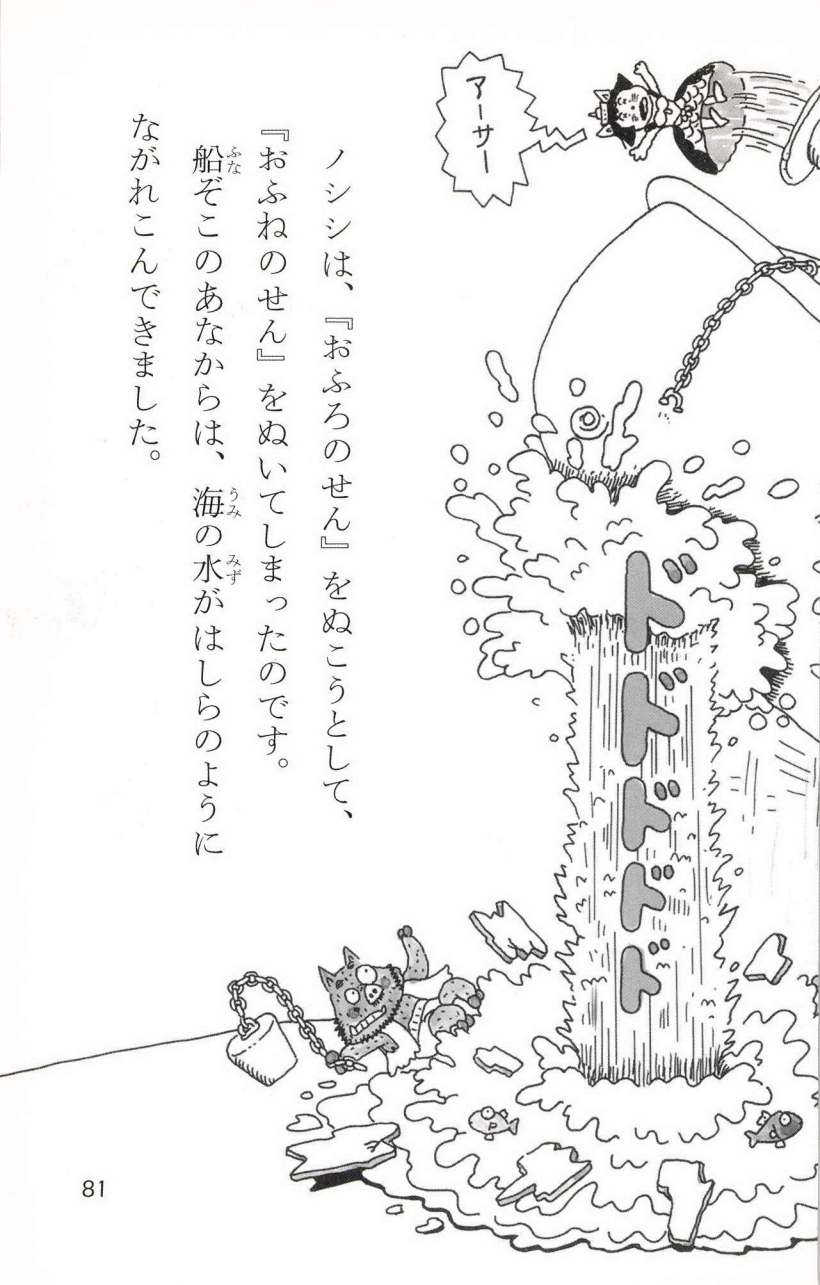
そうです。この船は、まえにゾロリが
まほうをつかって、船に変身させていた
くじらだったのです。





「アーサー、
船を見て。だんだん
くじらになっていくわ……。」

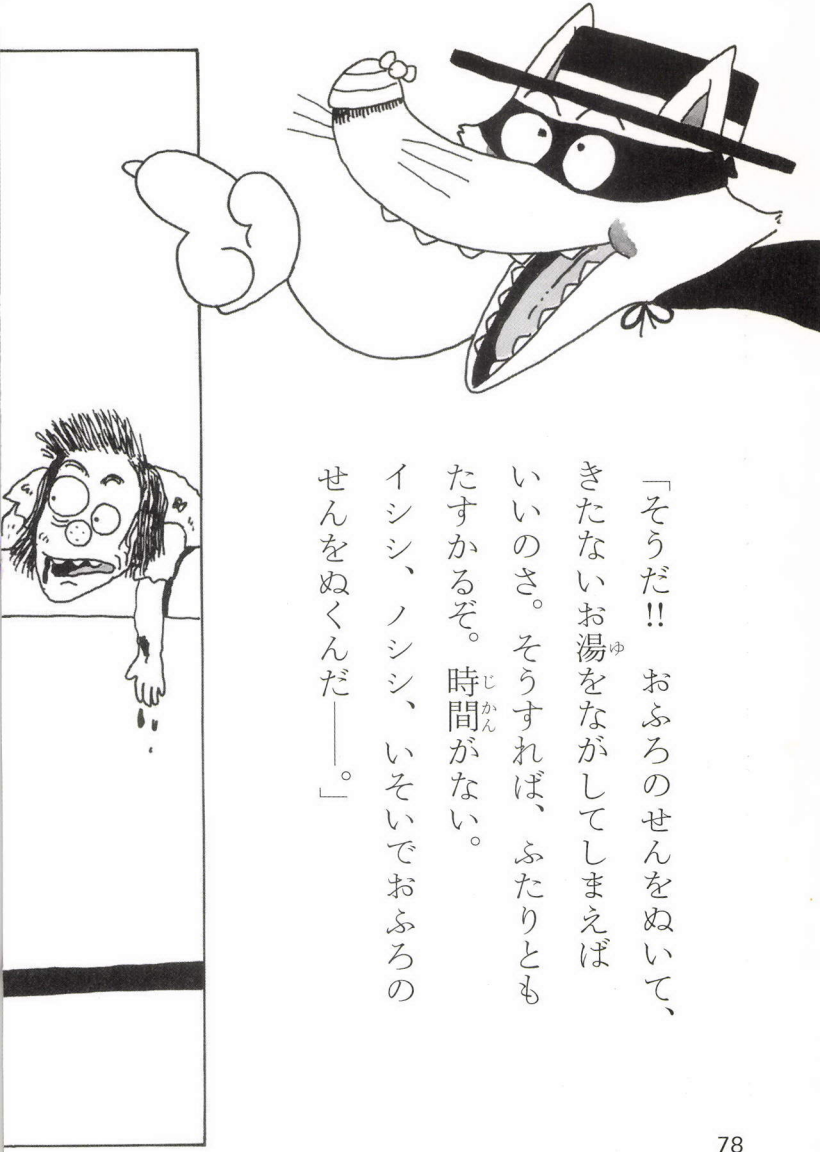
うまく水ばしらにのったアーサーとエルゼは、
ふん水のように空高くふきあげられ、ゾロリたちは
海にほうりだされました。



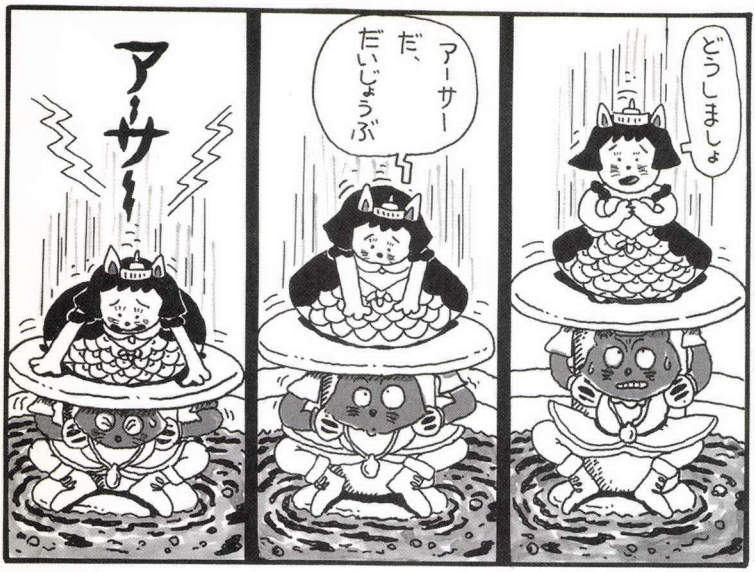
ノシシは、『おふろのせん』をぬこうとして、
『おふねのせん』をぬいてしまったのです。
船ぞこのあなからは、海の水がはしらのように
ながれこんできました。

たすかった〜
あんぐり

イシシとノシシは、
あわてておふろのせんを
ぬきにいきました。
ねえ、ノシシ、
こっちのくさりは
なんだっけ。
えっ？
おふねのせん
おふろのせん
スポン



「そうだ!!　おふろのせんをぬいて、
きたないお湯をながしてしまえば
いいのさ。そうすれば、ふたりとも
たすかるぞ。時間がない。
イシシ、ノシシ、いそいでおふろの
せんをぬくんだ――。」

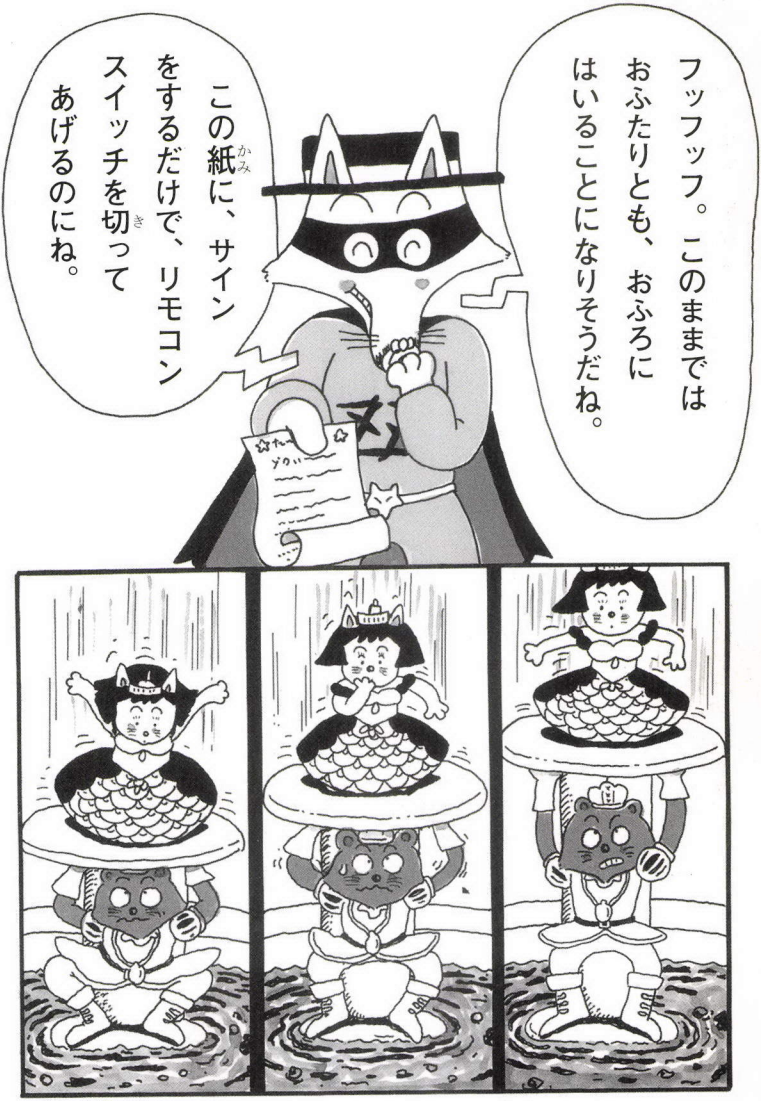


「な、なんだって、ど、どうするんだよ。ぼくをたすけなきゃ、サインはしてあげられないよ。ほら、いそいでなんとかしてくれよ。も、もう、だめだよ。」

天才ゾロリは、考えました、考えました。そして、いい考えがひらめいたのです。

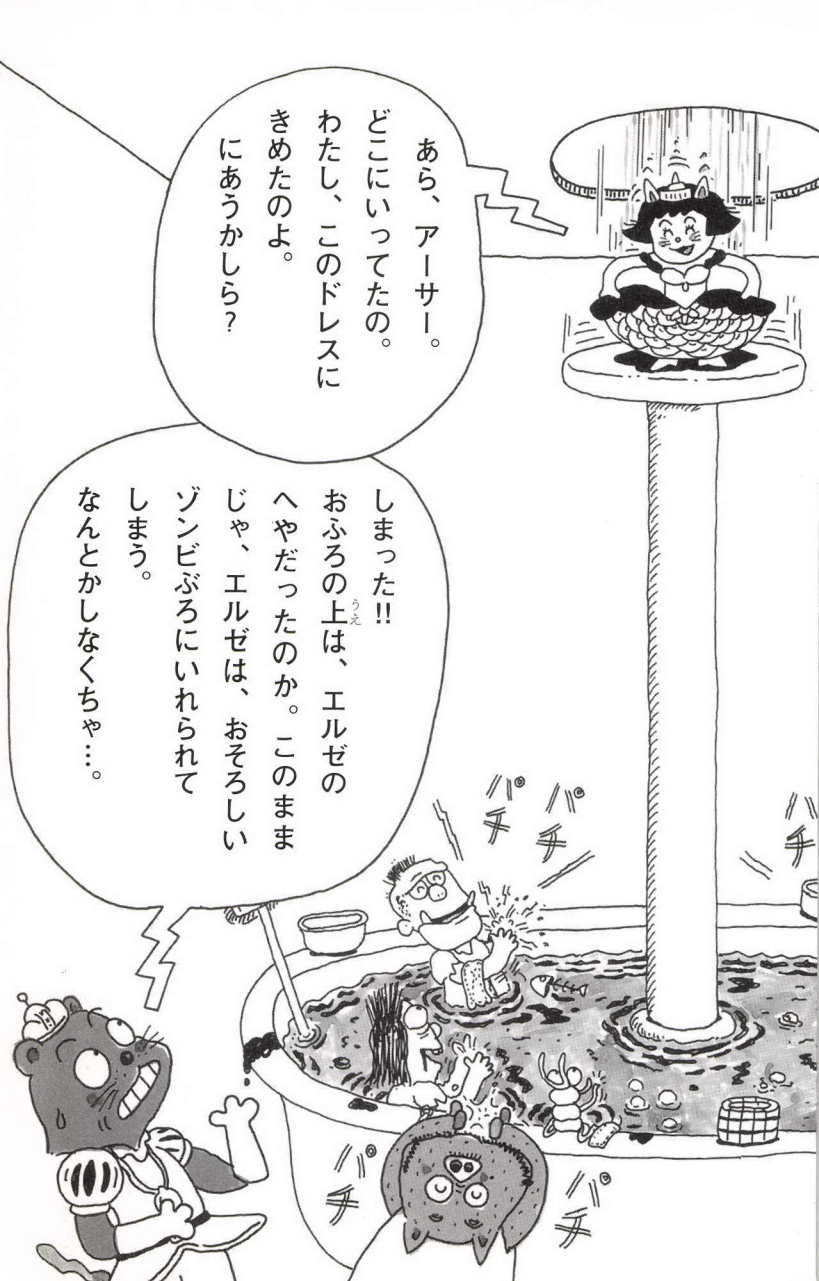
「よーし、やっとわかってくれたね。
それでは、スイッチを切ってあげようね。
ムフフ、これでお城は、おれさまのものだ。あらっ、こしょうかな？
あれ？　このリモコン、こわれちゃったみたいよ。
アーサー。」

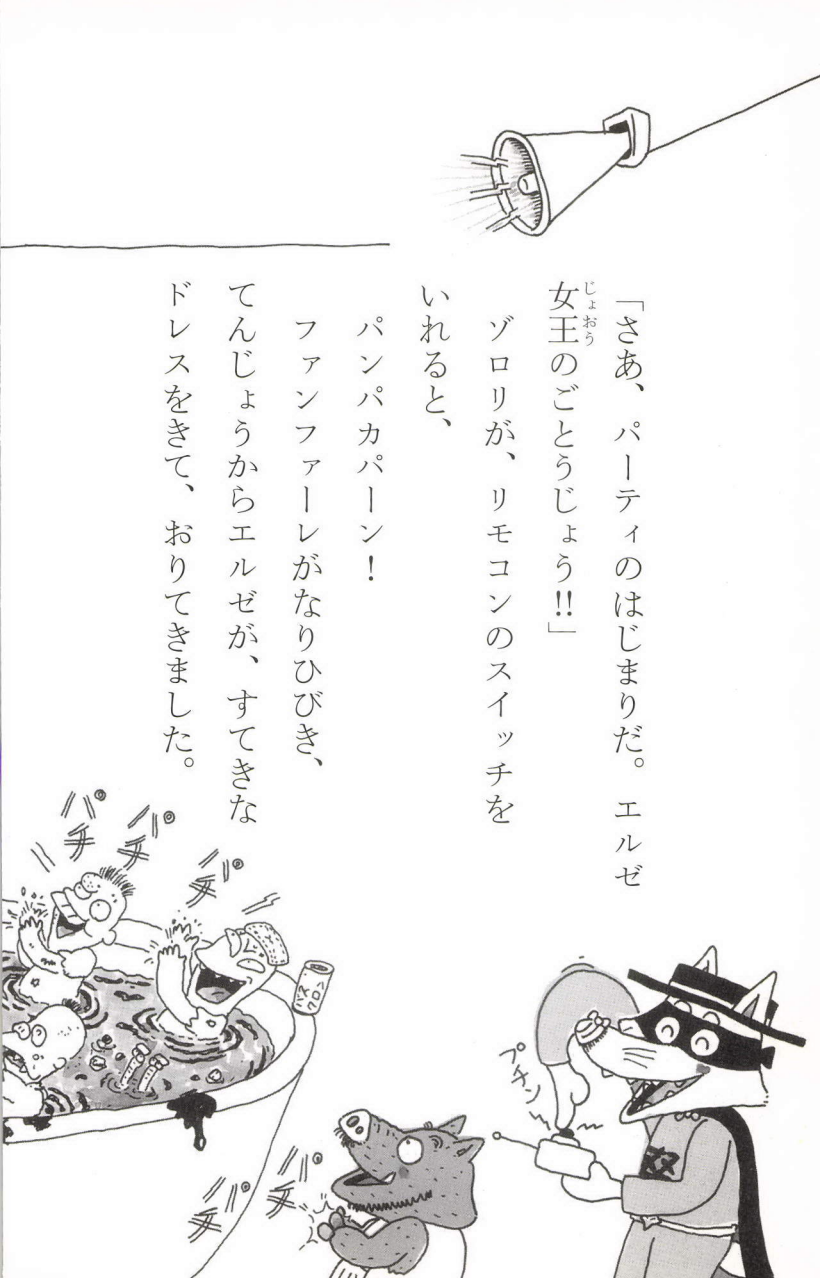
サインするよ。
サインするから、
このきかいを
とめてくれー!!
×××


フッフッフ。このままでは
おふたりとも、おふろに
はいることになりそうだね。
この紙に、サイン
をするだけで、リモコン
スイッチを切って
あげるのにね。

しかし、あいてはきかいです。
いくらアーサーでも、かないません。
アーサー、むりをしないで。
エルゼ女王がたすかるならば、ぼくはどうなってもかまわない。

アーサーは、ひらりとおふろのまん中にとびのりました。
まあ、あんなきたないところにはいったら、ドレスがだいなしだわ。
エルゼ、ぼくがここで台をささえてあげるから、だいじょうぶさ。
ひらり


あら、アーサー。どこにいってたの。わたし、このドレスにきめたのよ。にあうかしら？
しまった!! おふろの上は、エルゼのへやだったのか。このままじゃ、エルゼは、おそろしいゾンビぶろにいれられてしまう。なんとかしなくちゃ…。
バチ
バチ
バチ
バチ
バチ



「さあ、パーティのはじまりだ。エルゼ女王のごとうじょう!!」

ゾロリが、リモコンのスイッチをいれると、

パンパカパーン！

ファンファーレがなりひびき、てんじょうからエルゼが、すてきなドレスをきて、おりてきました。

◎てんじょうに つながる なぞの はしら
むかでや げじげじ のみ・ねずみ いっしょに すんでる はかのした
わー、きたない。ぼくは えんりょするよ。こんな おふろにはいったら、きれいに なるどころか、いっぺんで びょうきになってしまいそう だからね。
タオルの かわりに ぞうきんを つかうぜ
ごしごし
せなかを あらう ときには このモップを つかうぜ
どろで つくった せっけん
ポコ ポコ
おおきな ゲジゲジ
メタンガス
はい おけと ぞうきん
なんだか したが
さわがしいわ
しんせいひん にゅうよくざい
スカンクの におい
ヘドロの かおり

ゆうれい船のおふろをのぞこう!!

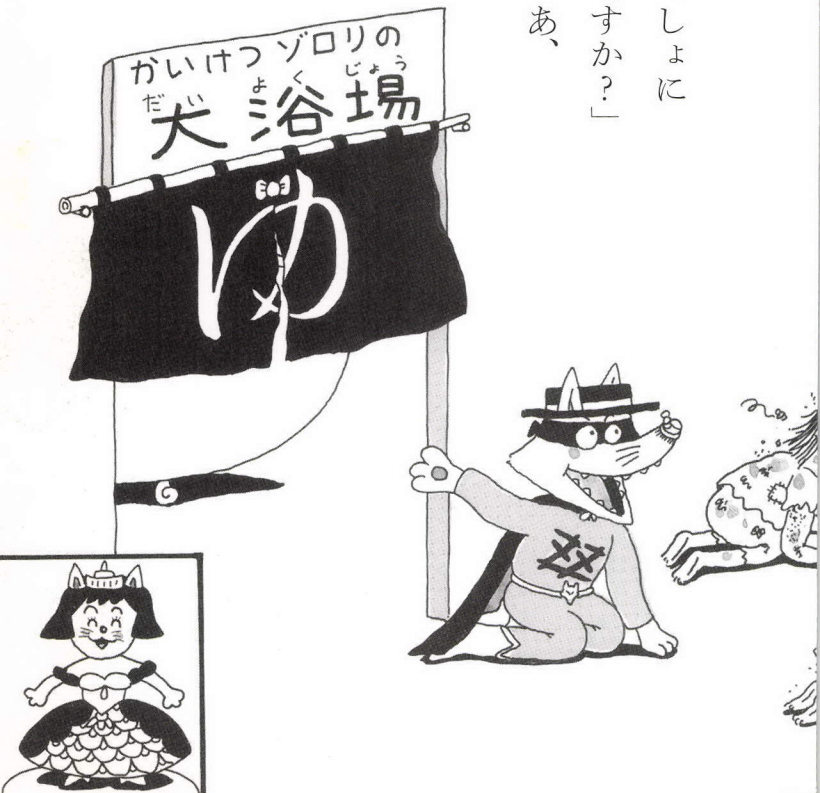
おかあさまへ　ちょっときたないシーンもございますので、お子さまには、食事中に読ませないでください。

ゾンビたちが、おふろにはいると、きれいなお湯も、あっというまに、まっ黒けのけです。

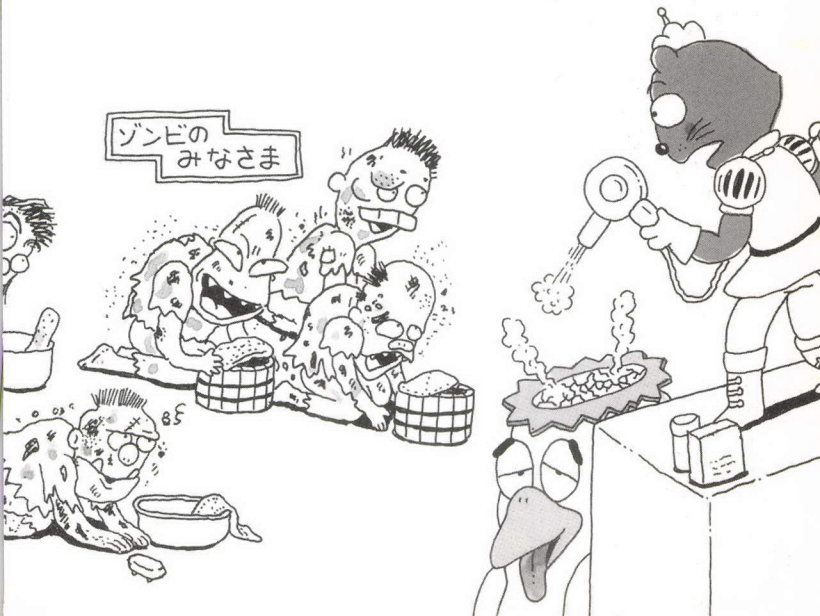
ことでしょう。ごいっしょに
おふろなど、いかがですか？」

「そ、そうかい。じゃあ、
おことばにあまえて
……。」

ゾロリは、
アーサーを
となりのおふろ場へ
案内しました。



「おみごと、おみごと。」
いつのまにか、ゾロリと
きみのわるいゾンビのみなさまが、
アーサーのまわりにひざまずいて
います。
「アーサーさま、まいりました。
いままでのしつれい、おゆるし
ください。おわびといっては
なんですが、あせもかかれた



電気くらげからながれた
電気が、ドライヤーの口から
あつい風をおくりだします。
ブオ――――――！
かっぱのさらは、みるみる
かわき、ひびわれ、そしてとうとう、
まわらなくなりました。
もちろんかっぱも、すっかり元気を
なくして、のびてしまいました。

スパーン!!

コードは、電気くらげのまん中にささりました。

そのときです。
ゆかで気絶していた
電気くらげたちが、
おきだしたのです。
アーサーは、これを見のがし
ません。ドライヤーのコードを
むちのようにひとふりしました。

バリバリバリバリ
キューン　キューン！
かっぱのさらは、うなりながら、
アーサーにせまってきます。
がんばれ、アーサー。
どうする、アーサー。

でもね、アーサーくん。そのへやには、コンセントがないんだよ。だから、そのドライヤーもただのがらくただね。
えっ？

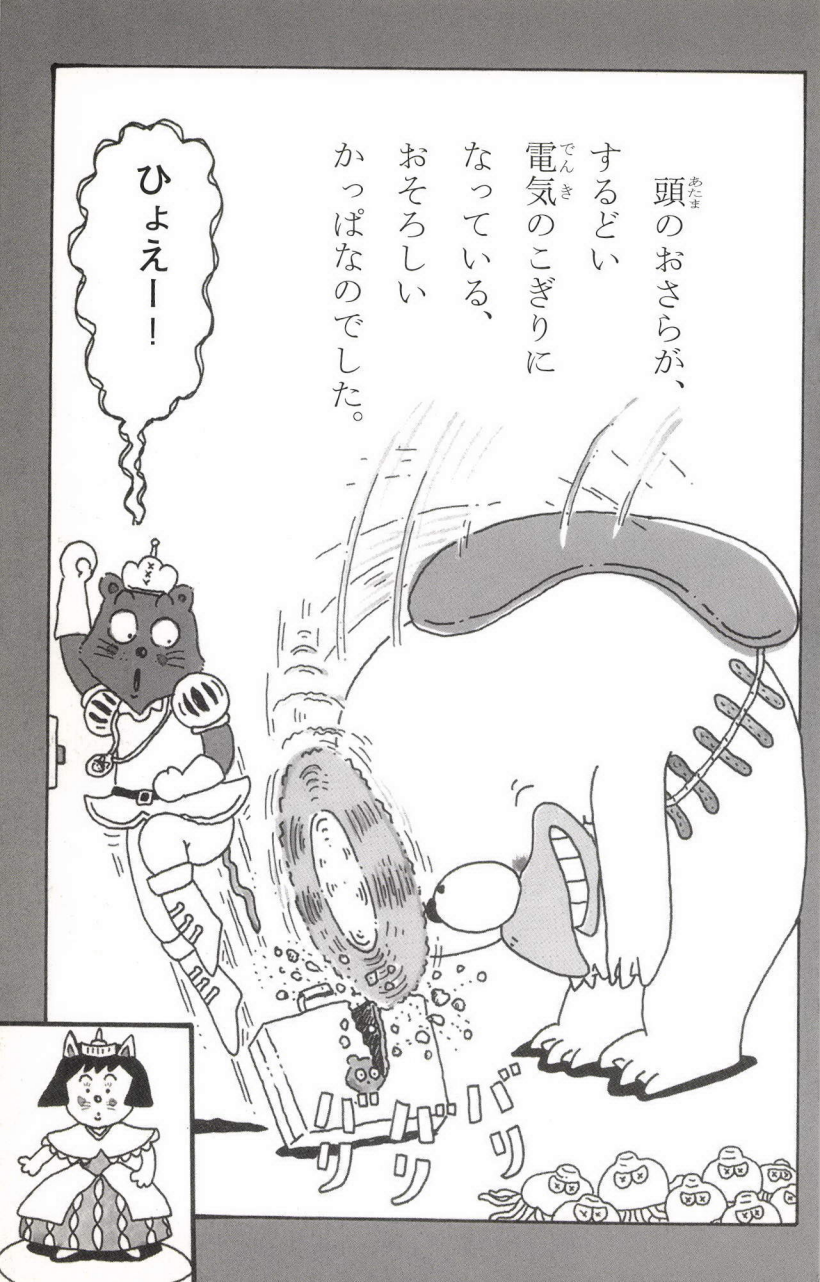
かっぱが、まっぷたつにした旅行カバンから、ドライヤーがころがりでました。

どうだい、すごいだろ。

おーっ、いいもの見つけた。

かっぱは、頭のさらの水がかわいてしまうと、力がでなくなるというぞ。このドライヤーで、かわかしちゃえばいいんだ。

そのとおり！

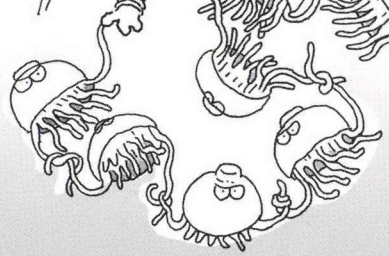

頭のおさらが、
するどい
電気のこぎりに
なっている、
おそろしい
かっぱなのでした。
ひょえー！
バリバリ

すると、大がっぱが、
すぐそばに立っているでは
ありませんか。しかも、
ただのかっぱではありません。

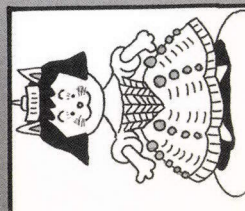
「ふーっ、ひどいめにあったなあ。ここでひとやすみしよう。」

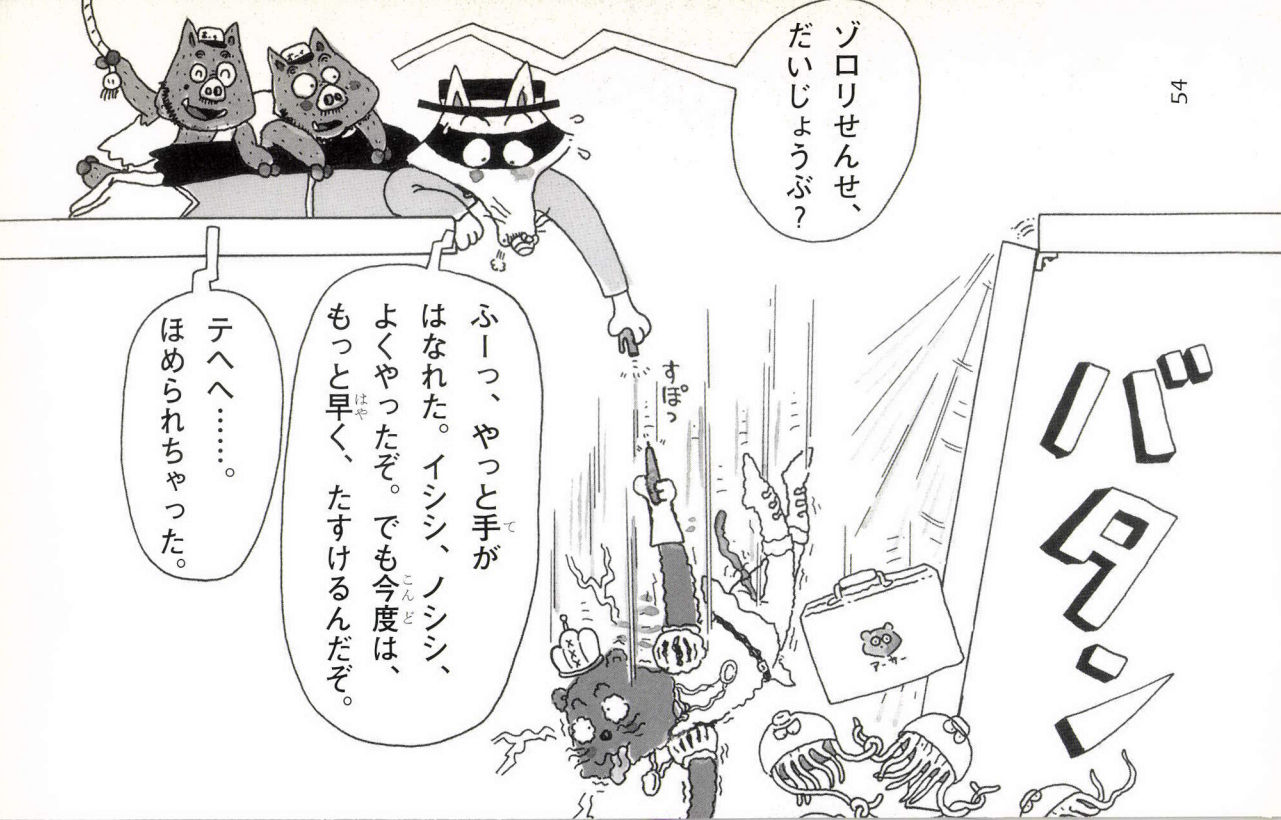
アーサーは、へやのあかりをつけました。

いいえ、アーサーは、うまくくらげたちを
クッションにして、ゆかにぶよんと、
着地したので、かすりきず
ひとつ、ありません。
ぺっちゃんこになった
のは、アーサーの
下じきになった、電気
くらげのほうです。
おかげで、くらげたちは気絶して、
電気をださなくなりました。



大きな音がして、
アーサーの立っていた
ゆかに、あなが
あきました。
アーサーは、くらげに
しびれたまま、くらやみへ
すいこまれていきます。
ああ、アーサーの
運命は？
このまま、ゆかに
たたきつけられて、
ぺっちゃんこになって
しまうのでしょうか？




ゾロリせんせ、だいじょうぶ？
ふーっ、やっと手がはなれた。イシシ、ノシシ、よくやったぞ。でも今度は、もっと早く、たすけるんだぞ。
テへへ……。ほめられちゃった。
すぽっ
バタン

ごちゃごちゃ
いってないで、
早くたすけんか、
ばかもの――。

おっと
いけねえ。
じゃ、いくぜ、
ノシシ。

がってんだ。
イシシ。

イシシとノシシは、このへやに
つくった、ひみつのロープを、
力をあわせて、ひっぱりました。

ぎゅ～っ

ビビビビビビビ
おい、ノシシ。おらたちが、このへやをかいぞうしたんだぜ。
そうさ、イシシ。このへやのことは、おらたちがいちばんよく知ってらあ。
こんなとき、ゾロリせんせをたすけるしかけも、つくったでねえか。
あっ、思いだした。イシシ、ゾロリせんせのお役にたてる日が、やってきただな。

ぎゃあぁ

し、しまった。
ビリリ……。

ゾロリにも
ながれこんだの
です。

まだ電気でしびれているアーサーに、ボールペンを手わたしたからたまりません。百ボルトの電気は、ボールペンをつたわって、

「ウヒャ、ほ、ほんとか。いよいよゆめにまで見た、『ゾロリ城パート2』が、おれさまのものになるんだね。ママー、ぼくちゃん、かんげきしています。」

ちょっと

なみだぐんで、

ゾロリはいいました。

「ほら、アーサーくん、

このペンで、サインをしてね。」

とうとう百ボルトの電気が、
アーサーのからだをかけめぐりました。
「ギャアア！　わ、わかった、サ、サインを
するよ。するから、たすけてくれー。」

「アーサーくん、この書類にサインを
するだけで、しびれなくてすむんだよ。」
「ウー、ビリビリ。いやだあー、ビリビリ。
サインなんかするものかー、ビリリ。」
「ごうじょうなやつだな。それじゃ、
さいごのくらげくんにも、手を
つないでもらいましょうね。」

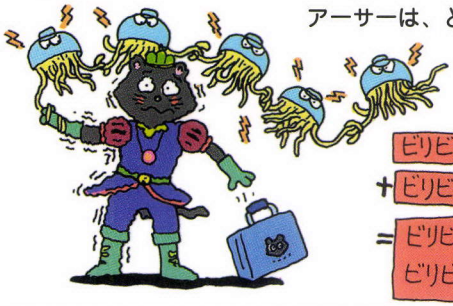
すごいぞ!! ゾロリの本は算数のおべんきょうもできる。

●さっそくママにも教えてあげよう!!

★ビリビリする電気くらげが2ひき、アーサーと手をつなぎました。アーサーは、どれだけビリビリしますか？

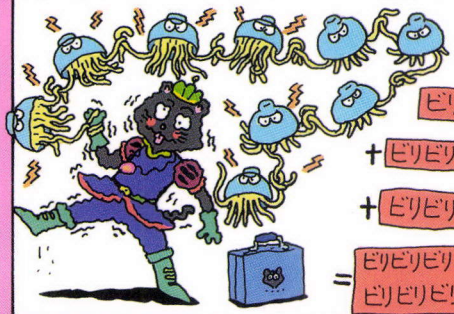
ビリビリ＋ビリビリ＝ビリビリビリビリします

★電気くらげが5ひき、アーサーと手をつなぎました。アーサーは、どれだけビリビリしますか？



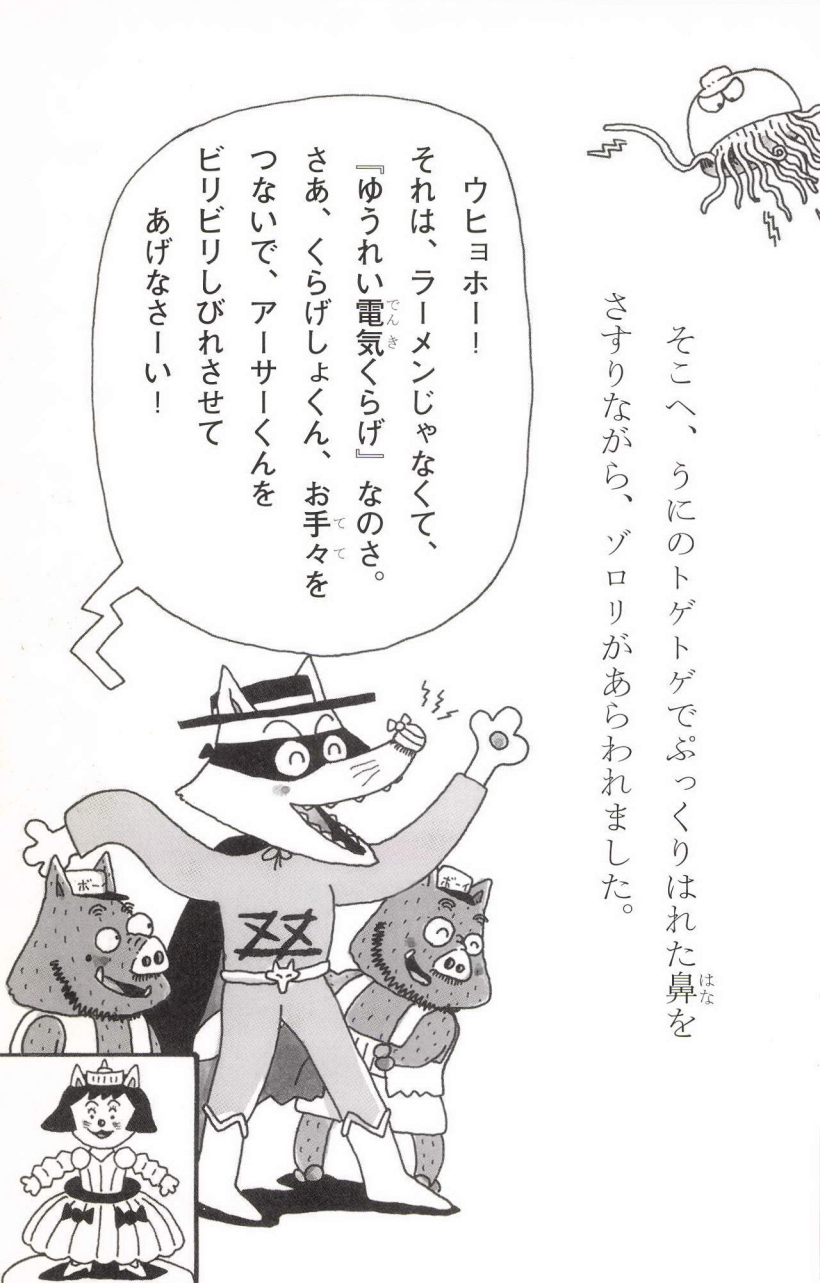
ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＝ビリビリビリビリビリビリビリビリします

★電気くらげが9ひき、アーサーと手をつなぎました。アーサーは、どれだけビリビリしますか？



ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＋ビリビリ＝ビリビリビリビリビリビリビリビリビリビリビリビリビリビリビリビリビリします

そこへ、うにのトゲトゲでぷっくりはれた鼻をさすりながら、ゾロリがあらわれました。

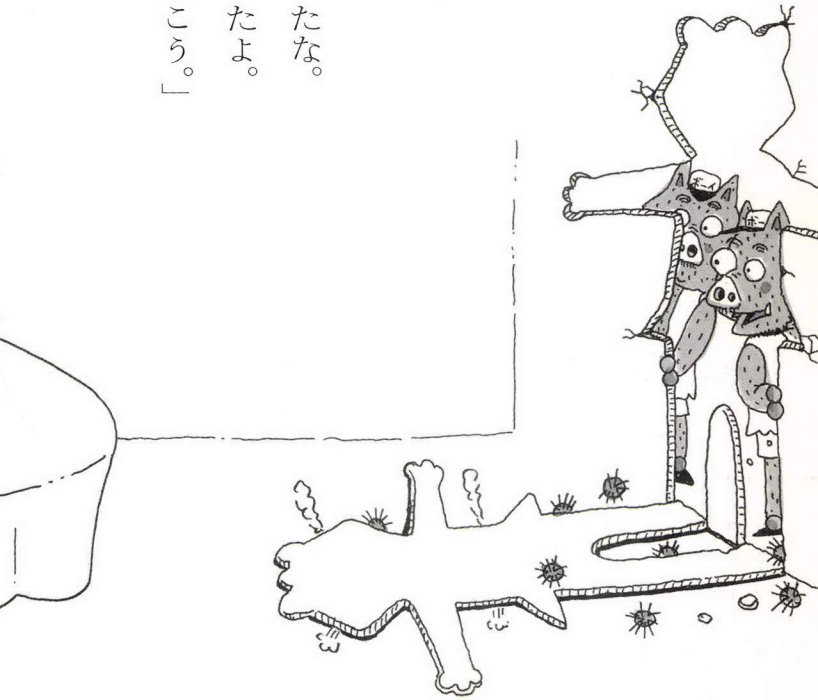


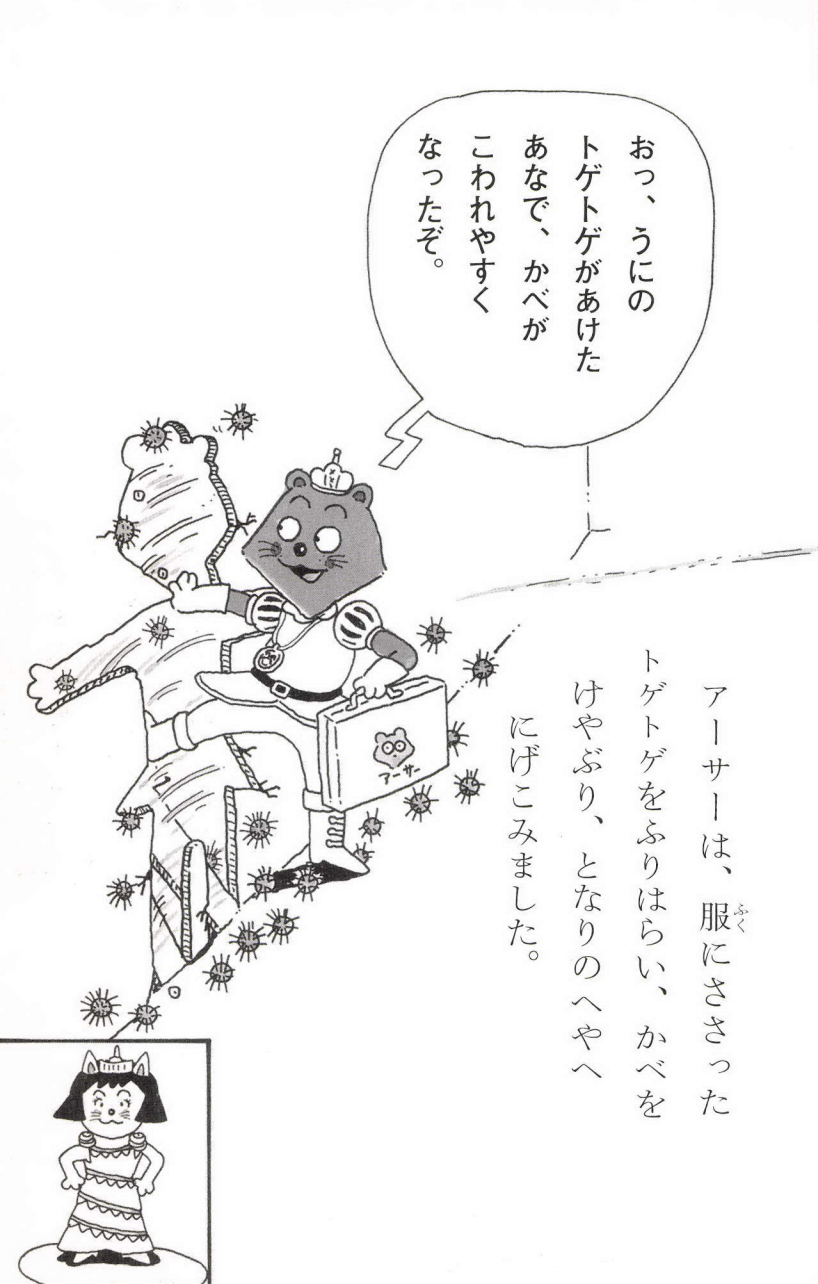
ふわりっ!!
ラーメンのどんぶりは、UFOのように
うきあがり、にげだしたのです。
アーサーが、あわてて
にげるラーメンを
つかまえたとたん――

――からだ中に、
電気が走りました。

アーサーが、
ラーメンのどんぶりに
手をのばすと――

そのへやは、きっと
食堂なのでしょう。
テーブルには、十人分の
ラーメンがきれいにならべて
ありました。
「ふーっ。あぶないめにあったな。
きゅうにおなかがへっちゃったよ。
このラーメン、ひとついただこう。」





アーサーは、服にささった
トゲトゲをふりはらい、かべを
けやぶり、となりのへやへ
にげこみました。

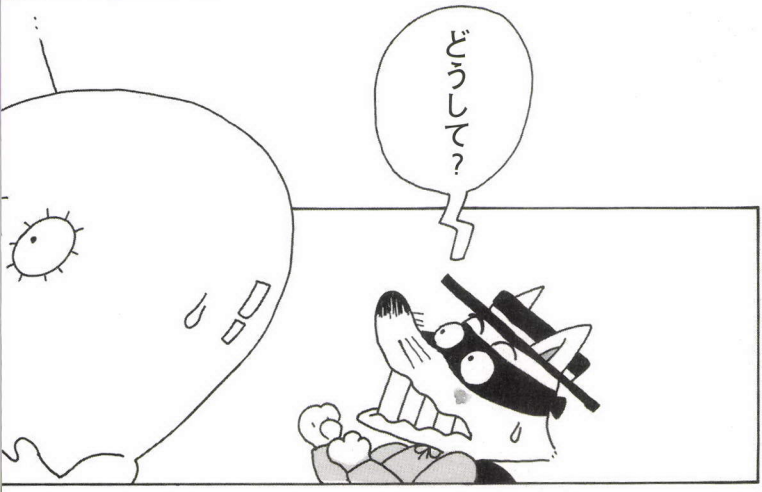
はねかえった
トゲトゲは、
うにぼうずに
めいちゅうして、
このとおり。

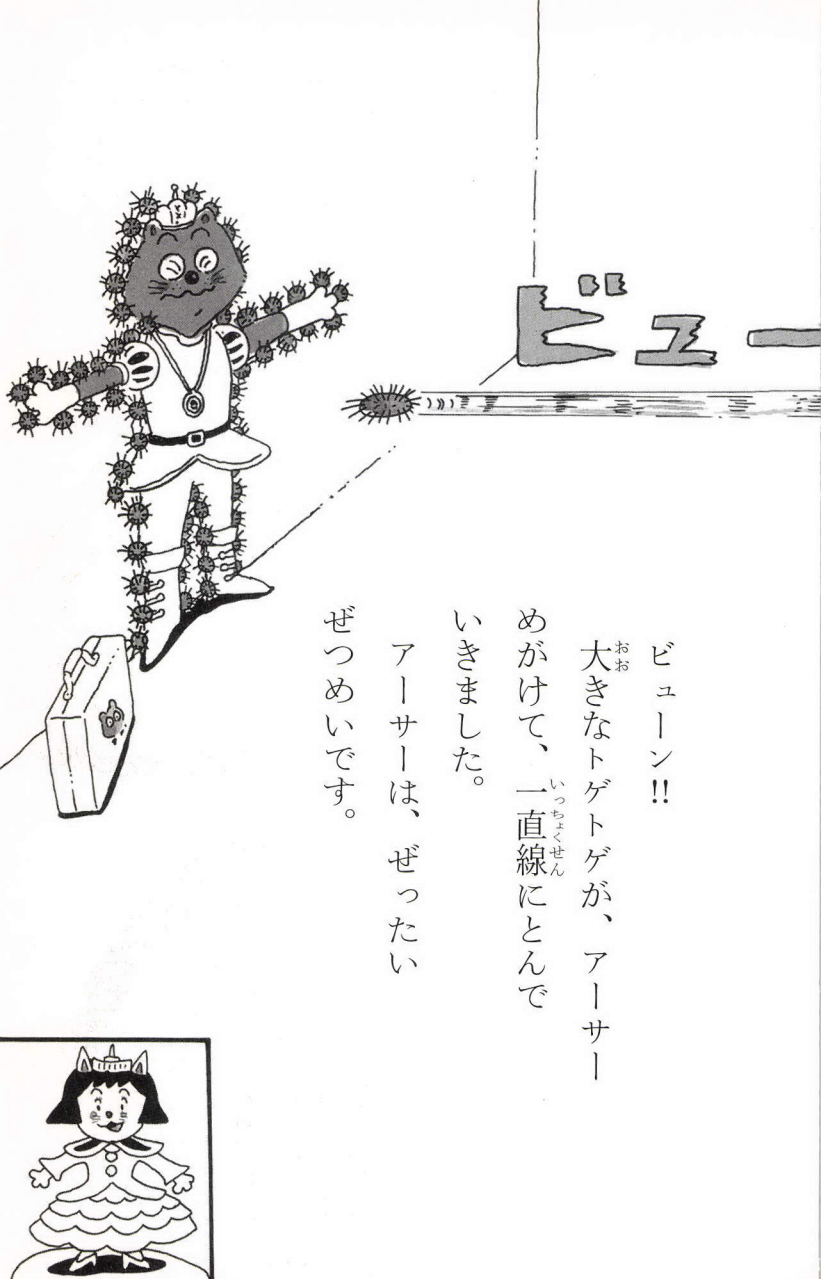
ああ、エルゼ女王！
ぼくをいつも
見まもってくれて
いるんですね。
グスン。
カーン
ありゃ！

ところが、なんということでしょう。

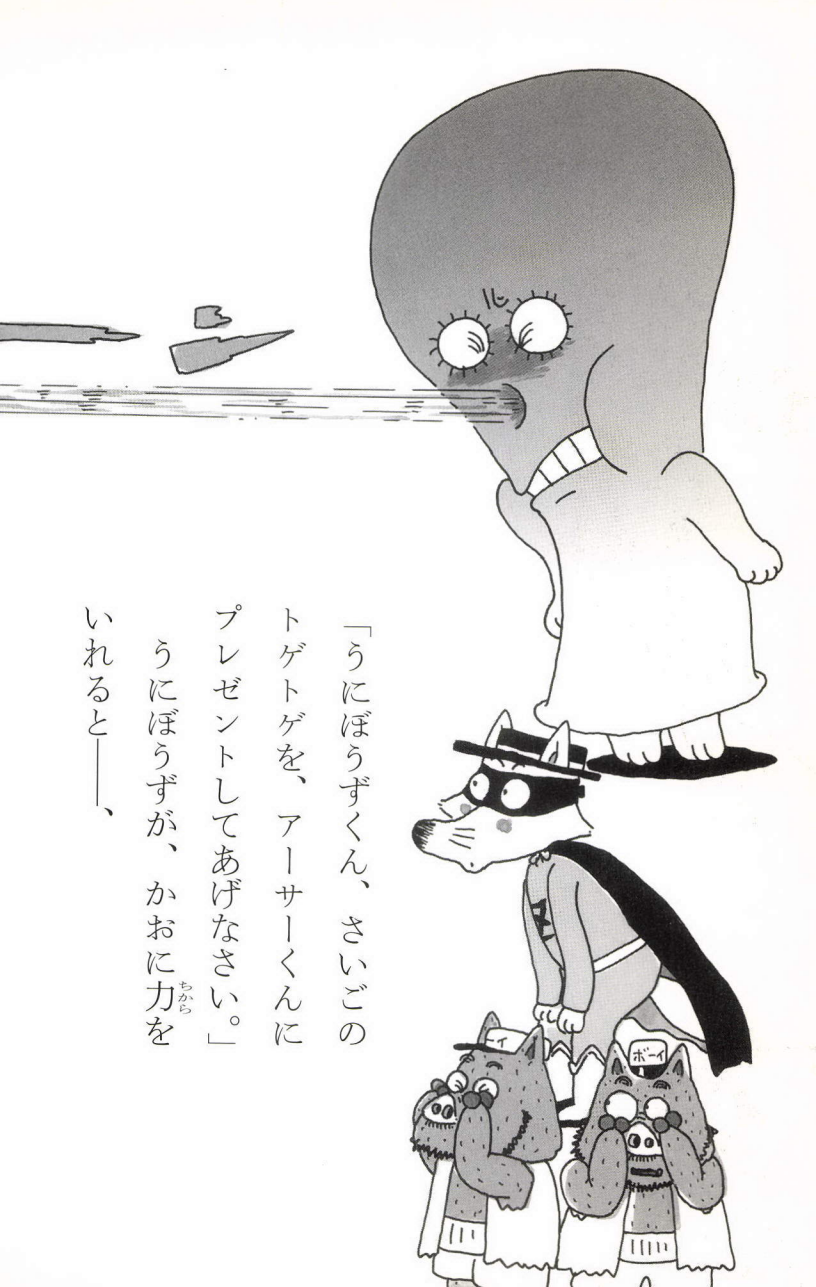
トゲトゲは、アーサーのむねにかがやく、エルゼ女王のペンダントにはねかえされたのです。

エルゼ女王の愛が、アーサーをまもったのです。





ビューン!!
大きなトゲトゲが、アーサーめがけて、一直線にとんでいきました。
アーサーは、ぜったいぜつめいです。

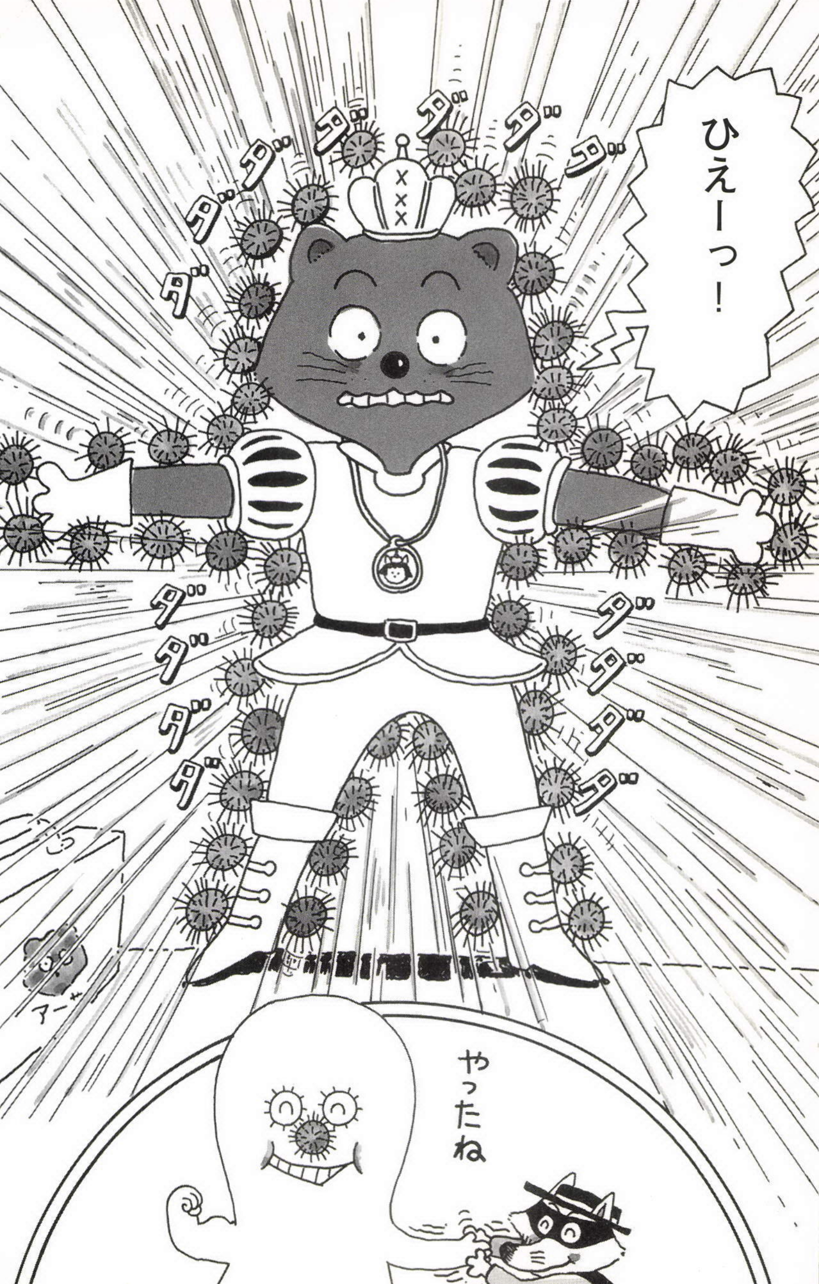


「うにぼうずくん、さいごの
トゲトゲを、アーサーくんに
プレゼントしてあげなさい。」
うにぼうずが、かおに力を
いれると――、

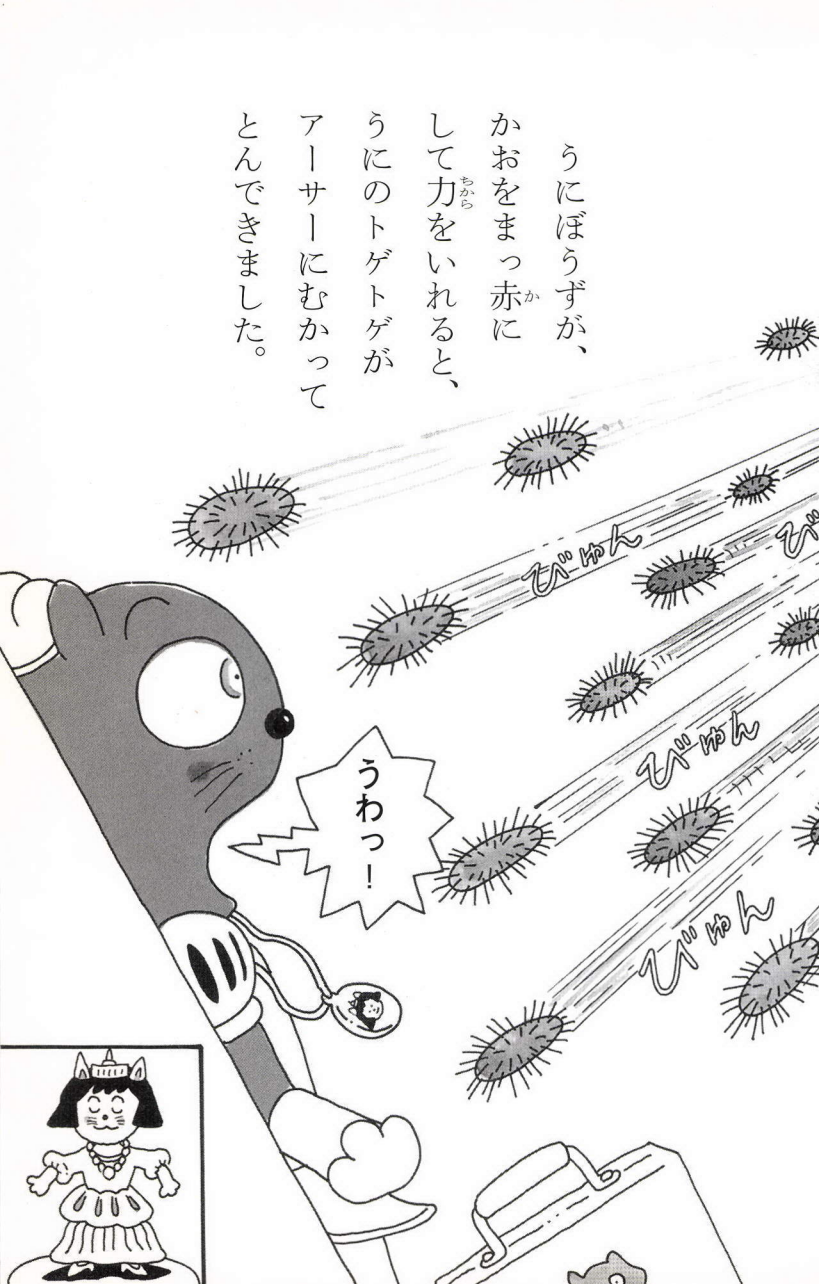
「ニヒニヒ、アーサーくん。身うごきがとれなくなったようだね。つぎのトゲトゲは、きみをぜったいにはずさないよ。いたいめにあわないうちに、サインをしたほうがいいんじゃないかい。」

「いやだ。ぼくは王さまとして、お城をまもらなくちゃ、いけないんだ!!」

アーサーは王さまになって、責任感のある、りっぱな青年に成長していたのです。

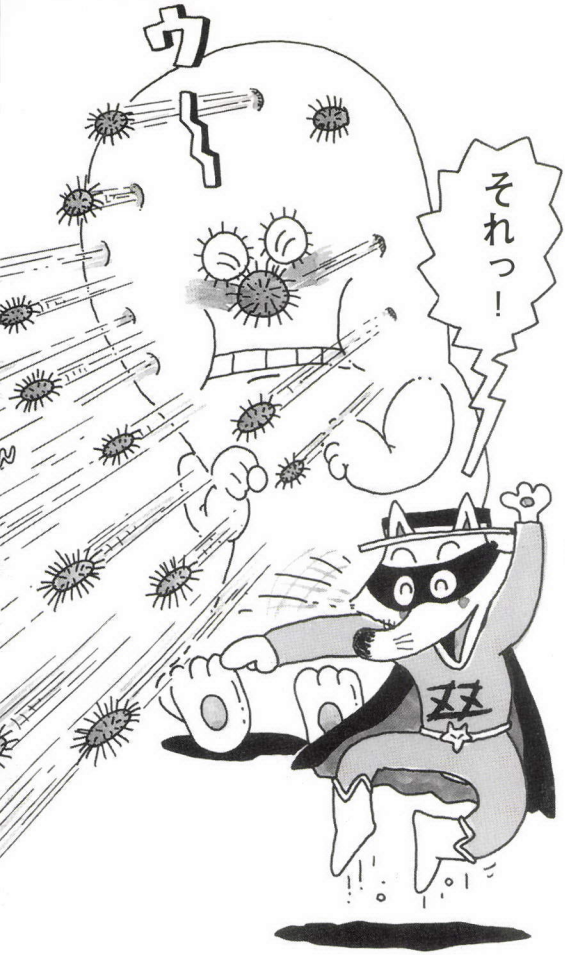

ひえーっ！
ダダダダダダ
ダダダダ
ダダダダ
やったね

うにぼうずが、
かおをまっ赤にして力をいれると、
うにのトゲトゲがアーサーにむかってとんできました。



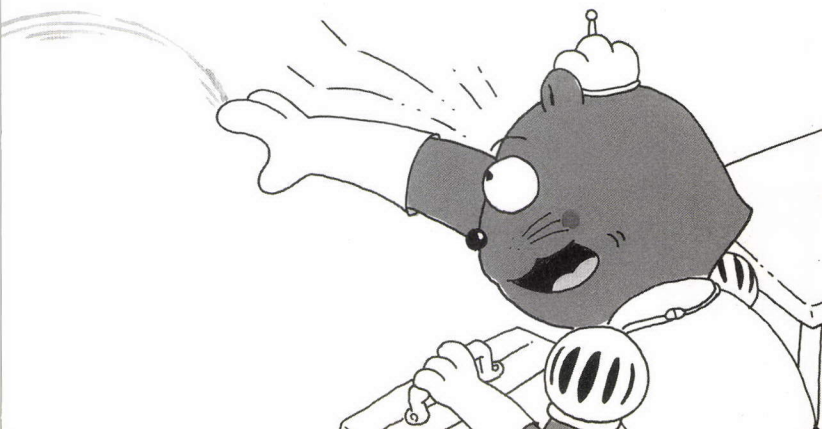
「な、なんだ。こいつは。」

「ニヒニヒ。きみにはタキシードのかわりにうにのトゲトゲを、プレゼントしようというわけさ。」



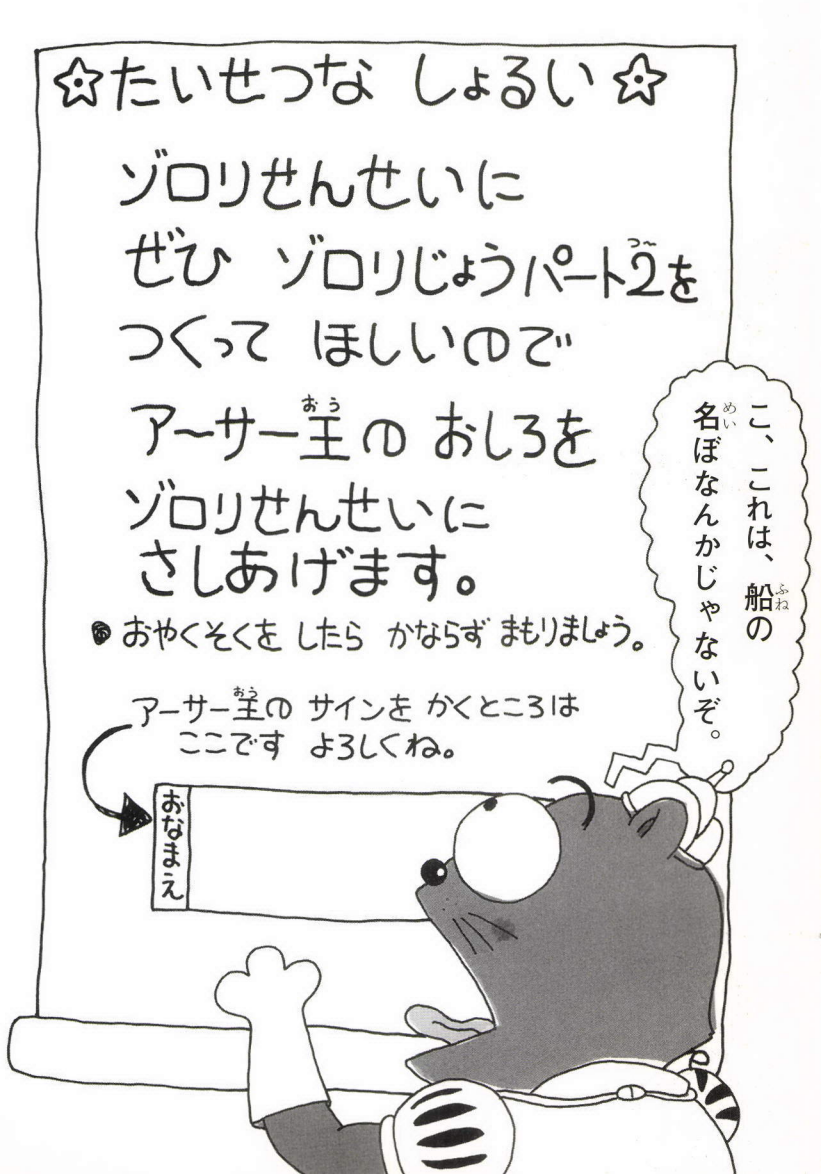
いつのまにか、ゾロリの
うしろには、大きなトゲトゲの
おばけが立っていました。

「と、とんでもない。いやだよ。」
アーサーは書類をまるめて、
ゾロリになげかえしました。
「おやおや。すなおにサインを
しないのか。それならしかたないね。
きみのおせわ係のうにぼうずくんを
ごしょうかいします。」



「な、なに。ゾ、ゾロリだって？」

「ニヒニヒニヒ。いまごろ気づいても、おそいぜ。おれさまのみごとなへんそうにだまされちゃったね。さあ、もうにげられないぜ。たのしいしんこん旅行をしたいのなら、さっさとその書類にサインをするんだね。」


☆たいせつな しょるい☆
ゾロリせんせいに
ぜひ ゾロリじょうパート2を
つくって ほしいので
アーサー王の おしろを
ゾロリせんせいに
さしあげます。
おやくそくを したら かならず まもりましょう。
アーサー王の サインを かくところは
ここです よろしくね。
おなまえ
こ、これは、船の
名ぼなんかじゃないぞ。

「いやいや、アーサーさま。あわてずに、まずはつくえの上の書類にサインをいただきたいだよ。」

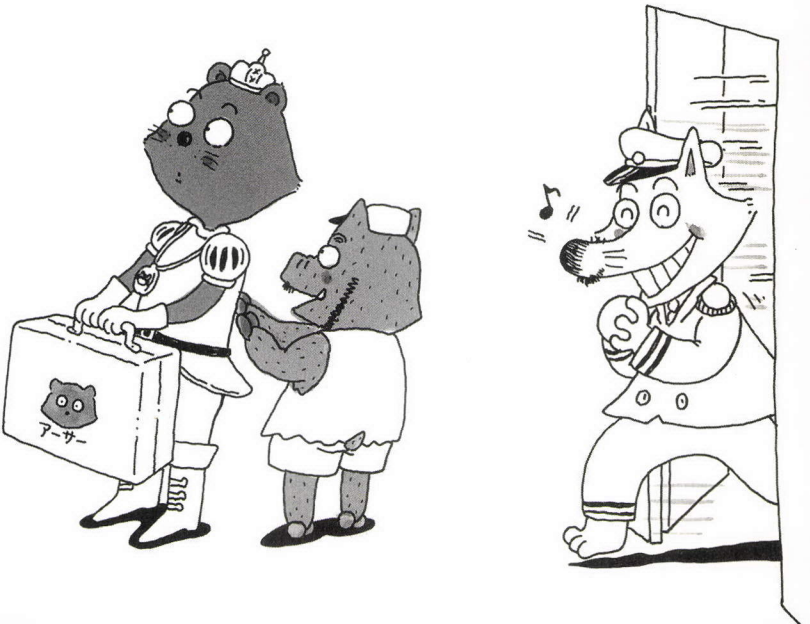
「ああ、船の名ぼだね。」

アーサーは、サインをしようといすにこしかけ、書類を読みました。

エルゼ コーナー

☆ エルゼが、いまどんな ドレスにきがえているのかおつたえします。どれが にあうかみてあげてね。

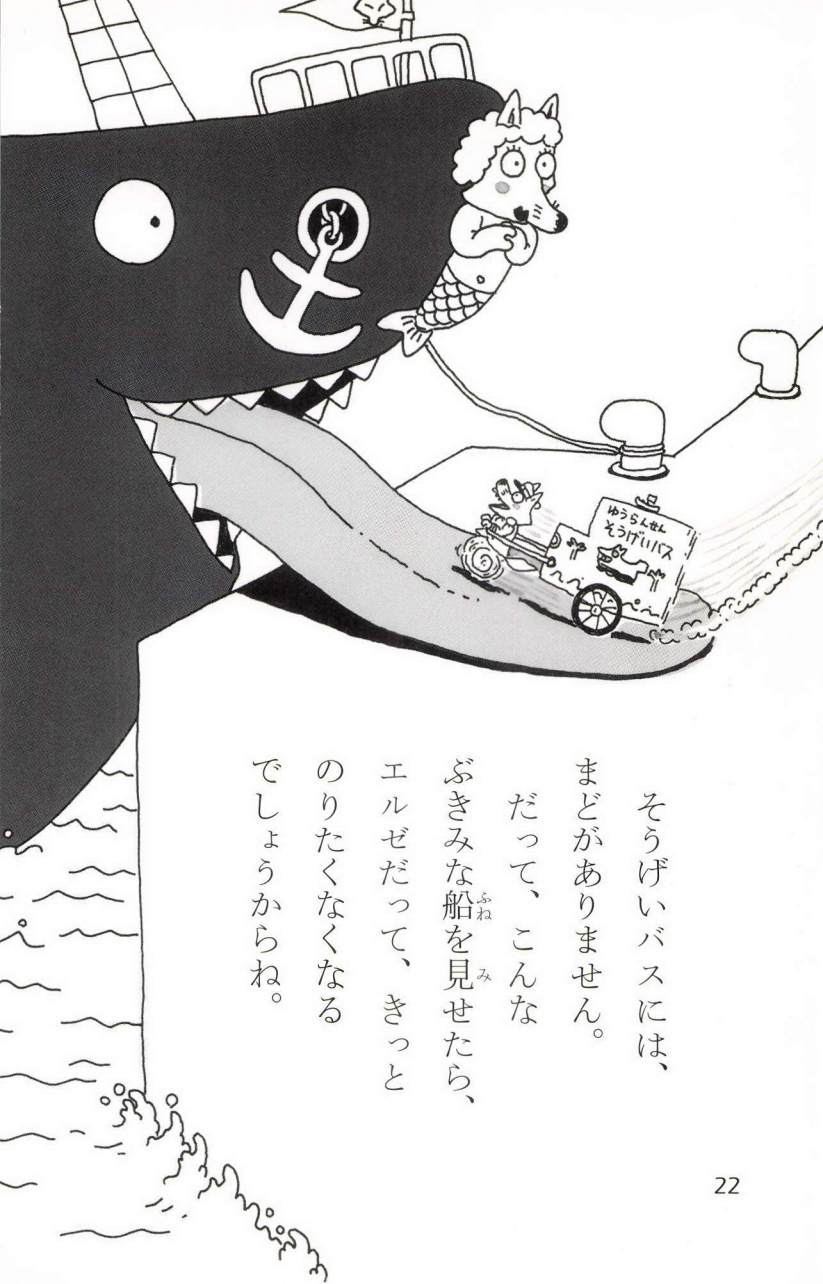
となりのへやには、
つくえといすがぽつんと
おいてありました。
「おい、ボーイくん。ぼくも、
エルゼとパーティにでたい
から、タキシードをかして
くれないかい？」



さあさ、レディのきがえを見(み)るなんて、しつれいだす。
アーサーさま、あんたのおへやはこちらだよ。
ボー
アーサー

さて、アーサーたちは、船にのりこむと、ドレスがいっぱいかかったへやへ案内されました。

さあ、いよいよ船は出発します。アーサーたちの運命は……。
ああ、考えただけでもおそろしい。
こわがりやのみなさん。読むのをやめるのはいまですよ。
ニヒニヒ。おれさまのゆうれい船はおそろしいからな。
しんぞうのよわいやつは、ここまでにしとけよ。



そうげいバスには、
まどがありません。
だって、こんな
ぶきみな船を見せたら、
エルゼだって、きっと
のりたくなくなる
でしょうからね。

☆リヤカーを
かいぞうした
そうげいバス

ゆうらんせん
そうげいバス

☆せんちょうが
ひっぱるから
あんぜん うんてんだよ

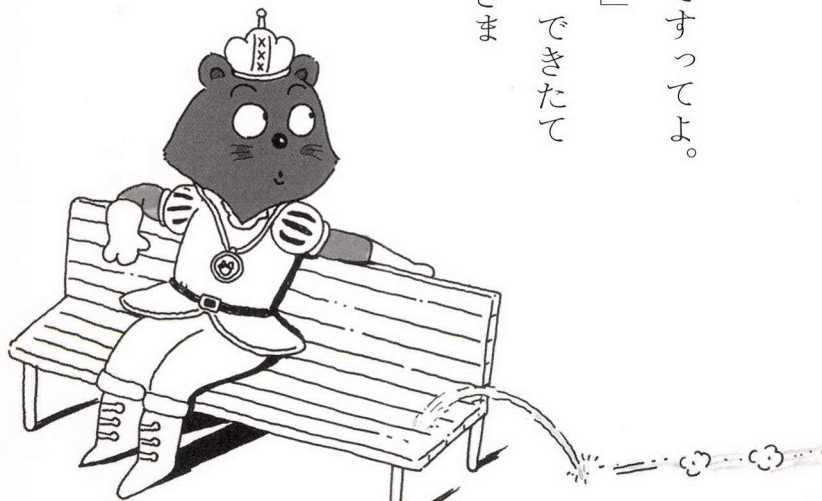
ブオーッ　ブオーッ!!
「おっと、いけない。船の出発の汽笛ですよ。さあさあ、いそいで、いそいで。」
船長は、そうげいバスにアーサーたちをむりやりおしこむと、全速力で走りだしました。

ひゃっほ〜
せいこう
せいこう

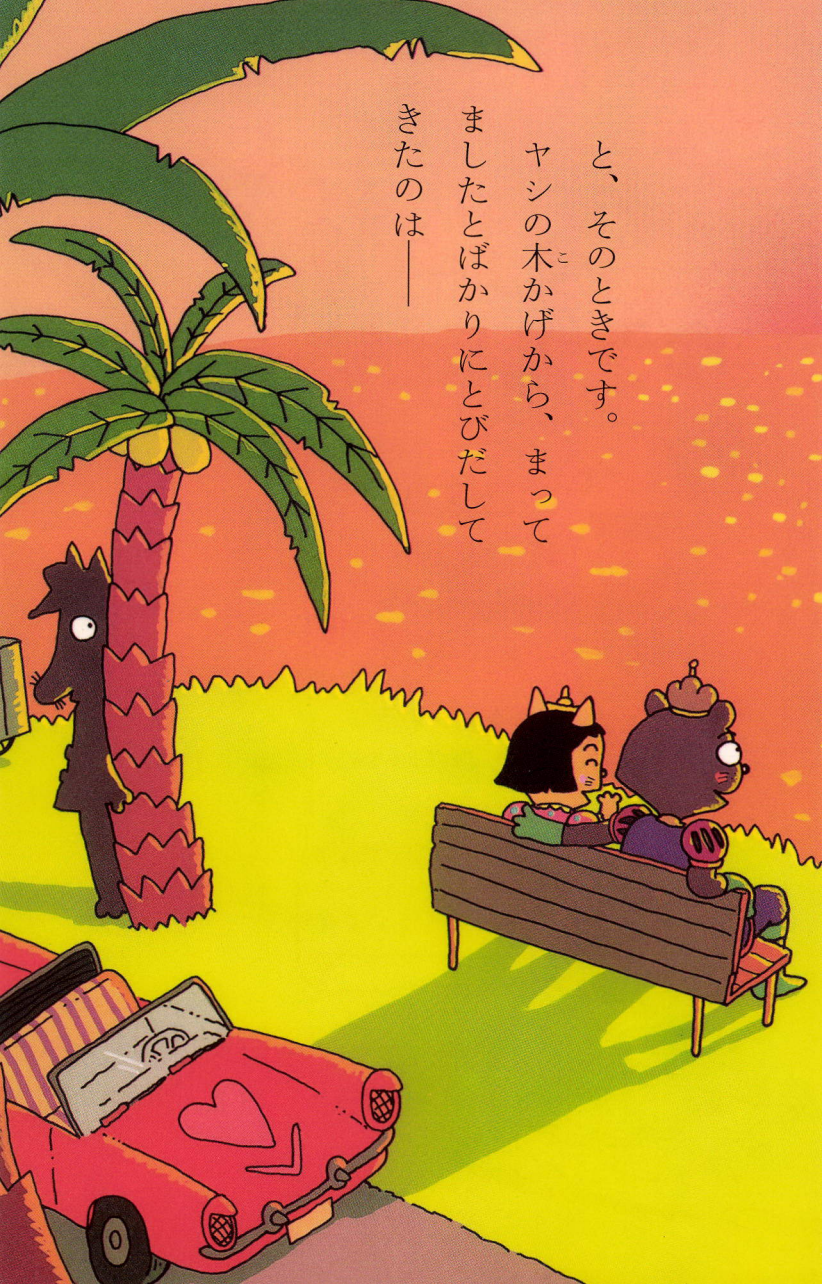
ゆうらんせん
そうげいバス

アーサーがうたがうのも、しかたありません。
読者のみなさんは、もう見やぶっているかもしれませんが、
この船長は、もちろんゾロリです。そして、ポスターは、ゾロリの
とくいな、こんなさいくがしてあったのです。

「まあ見て、アーサー、『ゆうらん船』ですってよ。
わたしたち、なんて運がいいんでしょう。」
「そうですとも。それもこのゆうらん船、できたて
ほやほや。あなたたちが、第一号のお客さま
なんです。」
「あら、ラッキー！　アーサー、わたし
きめたわよ、いいわね。」
「あ、ああ。で、でも、あの……船長、
どこかであったことが……。」



「ジャジャ、ジャーン。お船のことなら、この『ゆうらん船』の船長におまかせー。」



と、そのときです。
ヤシの木かげから、まって
ましたとばかりにとびだして
きたのは――

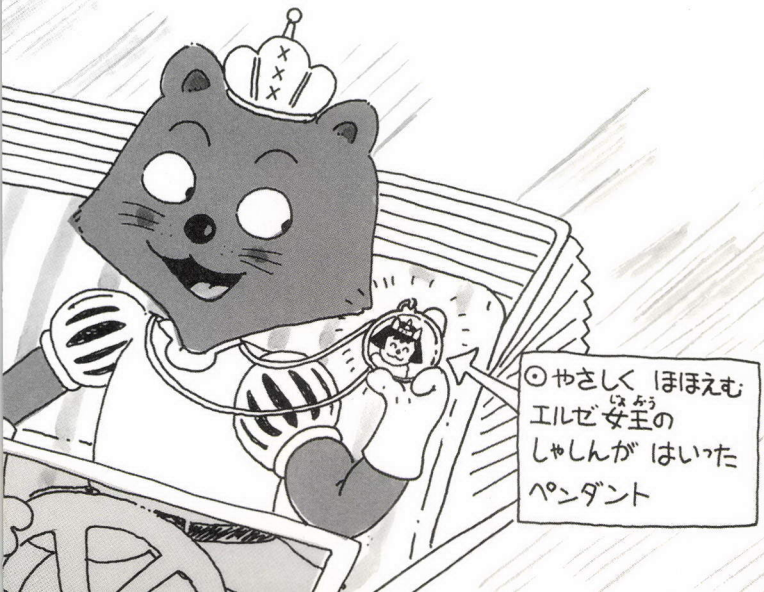
夕日が、ふたりをまっ赤につつみます。
金色にかがやく海を見つめていたエルゼが、いいました。
「ねえ、アーサー、海ってロマンチックよねえ。車の旅もいいけれど、船の旅もしてみたいわ。」
「うーん、で、でも、きゅうにそんなこといわれてもね。このあたりに、船なんか……。」

しあわせいっぱいの会話が、
赤いスポーツカーから
こぼれます。
「アーサー、わたし、海が
見たいわ。」
「よし、わかった。」
アーサーは、アクセルを
ふむと、車を海の見える
丘に走らせました。

こちらは、そんなこと、すこしも知らないアーサー王とエルゼ女王です。

「あなたからいただいた、このゆびわ。一生たいせつにするわね、アーサー。」

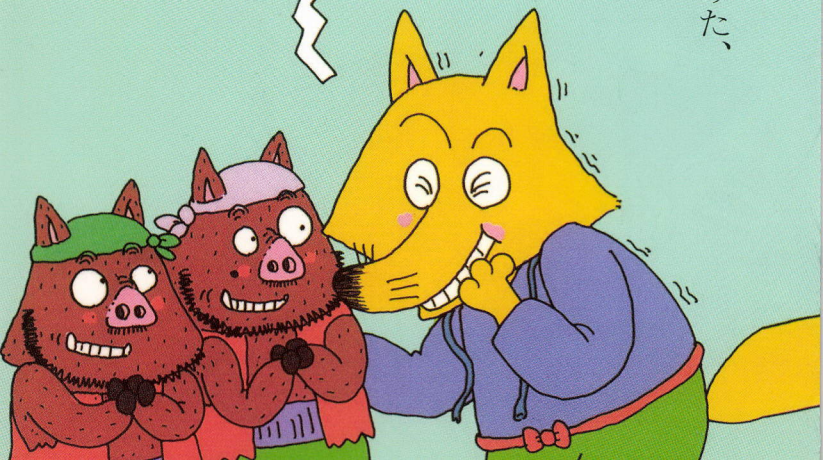
「きみからのペンダント、はだみはなさずいつまでも、ぼくのむねで光っているよ、エルゼ。」

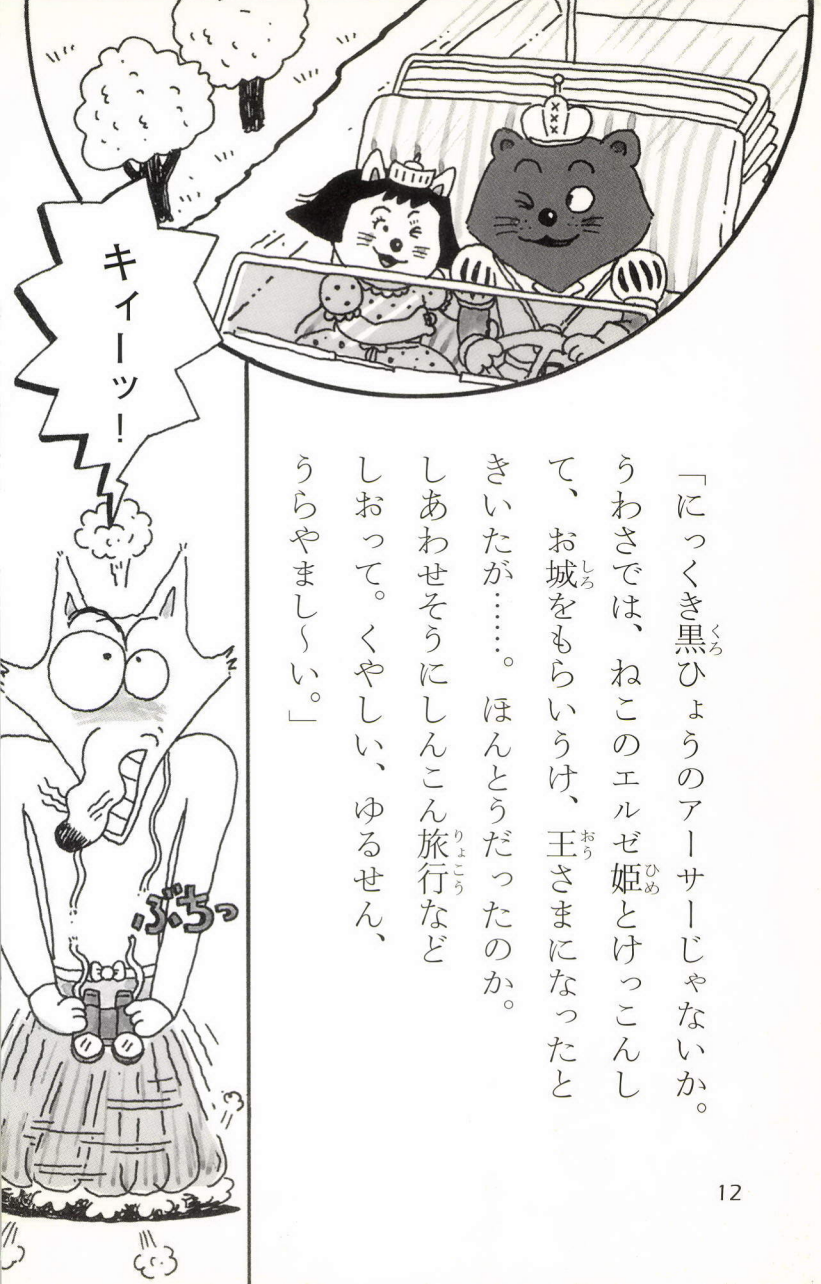


むかしゾロリは、アーサーとたたかって負けた、いやな思い出があるのです。

よーし、あのアーサーくんに、世にもおそろしいしんこん旅行をプレゼントして、かわりに、あいつのお城をいただくという計画は、どうだね？

ゾロリは、イシシ・ノシシとかおを見あわせ、にたりとわらいました。

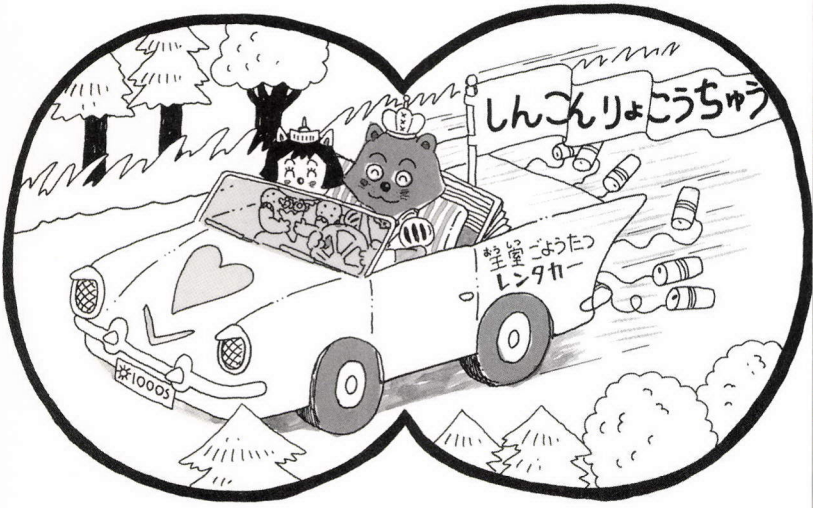




「にっくき黒ひょうのアーサーじゃないか。うわさでは、ねこのエルゼ姫とけっこんして、お城をもらいうけ、王さまになったときいたが……。ほんとうだったのか。しあわせそうにしんこん旅行などしおって。くやしい、ゆるせん、うらやまし〜い。」

ゾロリが、そうがんきょうをのぞきこむと、山道をつっ走る赤いスポーツカーが目にはいりました。

「おおっ、あのうんてん席にすわっているのは……。」



「さあて、おれさまの
どりょくのけっしょう、この
ゆうれい船で、さいしょに
ふるえあがっていただく
のは、どなたにしようかね。
ニヒニヒ。」

かいけつ

☆ なにより こわいのは ようかいがっこうの おばけや ゆうれいが のっていることだ!!

おらたち、ゾンビもの のってるぜ。

どこでででくるかは、

本を読んでのおたのしみさ。

ぶきみなおんがく

きりを だして きみの わるさを もりあげる

ドライアイス

•ひなんようのうきぶくろ
もちろん ゾロリと イシシ・ノシシの ぶん だけです おき•くさまようは ありません

•おべんじょ
ここで ようを たすと きたない ものは みんな うみへ おちるんだ

☆このふねは もともと クジラだったので かぜが ふかない日でも この しっぽで およいでくれる

(くわしくは『ゾロリの大かいぞく』をよもう)

このふねは サメはだだ。さわると けが するぜ

しょくどう

つくえと いすだけの へや

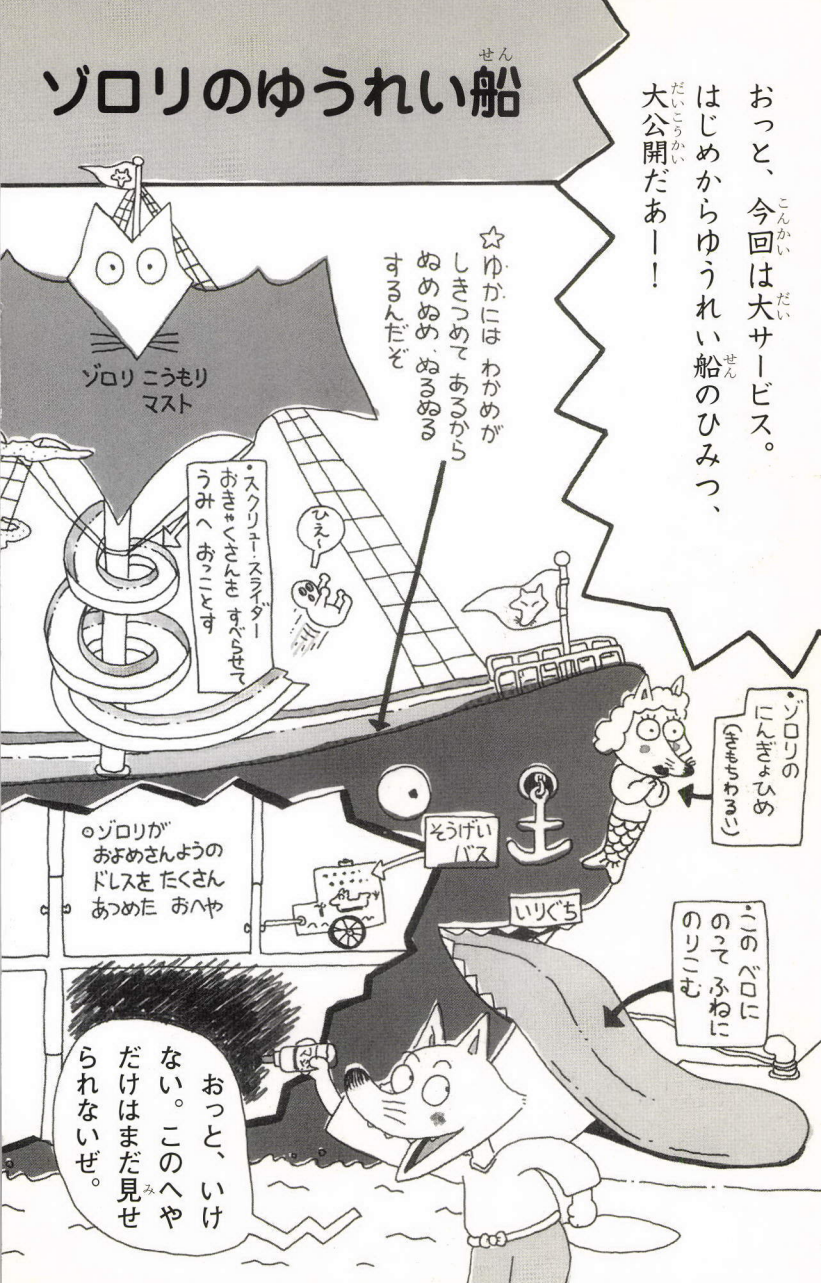
くらやみのへや

おそろしいものが まっているぞ

ゾロリせんせに いわれたとおり、

おらたちが かいぞうした だよ。

ゾロリのゆうれい船

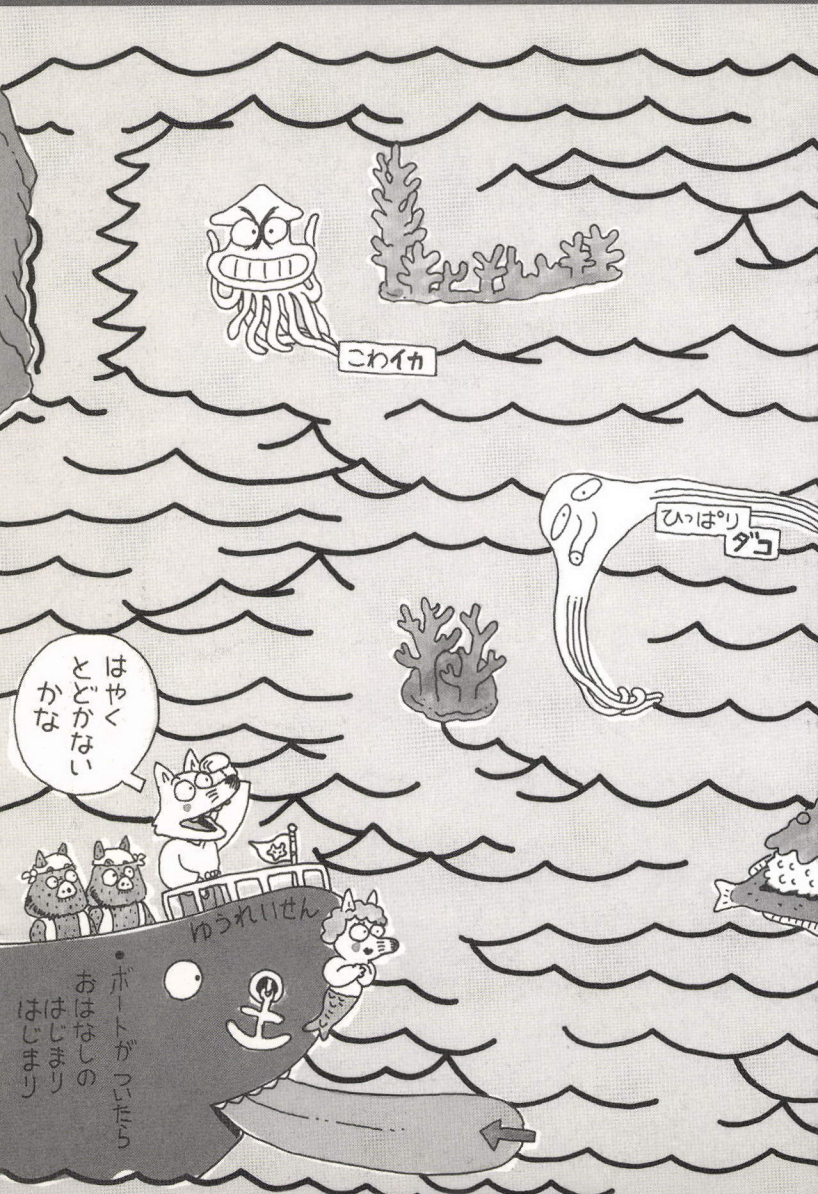

おっと、今回は大サービス。はじめからゆうれい船のひみつ、大公開だあー！
☆ゆかには わかめが しきつめて あるから ぬめぬめ、ぬるぬる するんだぞ
ゾロリ こうもり マスト
ひぇー！
・スクリュー・スライダー おきゃくさんを すべらせて うみへ おっことす
・ゾロリの にんぎょひめ (きもちわるい)
そうげい バス
○ゾロリが およめさんようの ドレスを たくさん あつめた おへや
いりぐち
・この ベロに のって ふねに のりこむ
おっと、いけない。このへやだけはまだ見せられないぜ。

見ててよ　ママー　この　船で
七つの海を　またにかけ
おどかす　いじめる　こわがらす
海の王者と　よばれるまでは
りくには　あがらぬ　かくごだぜ
あ　コリャ　コリャ

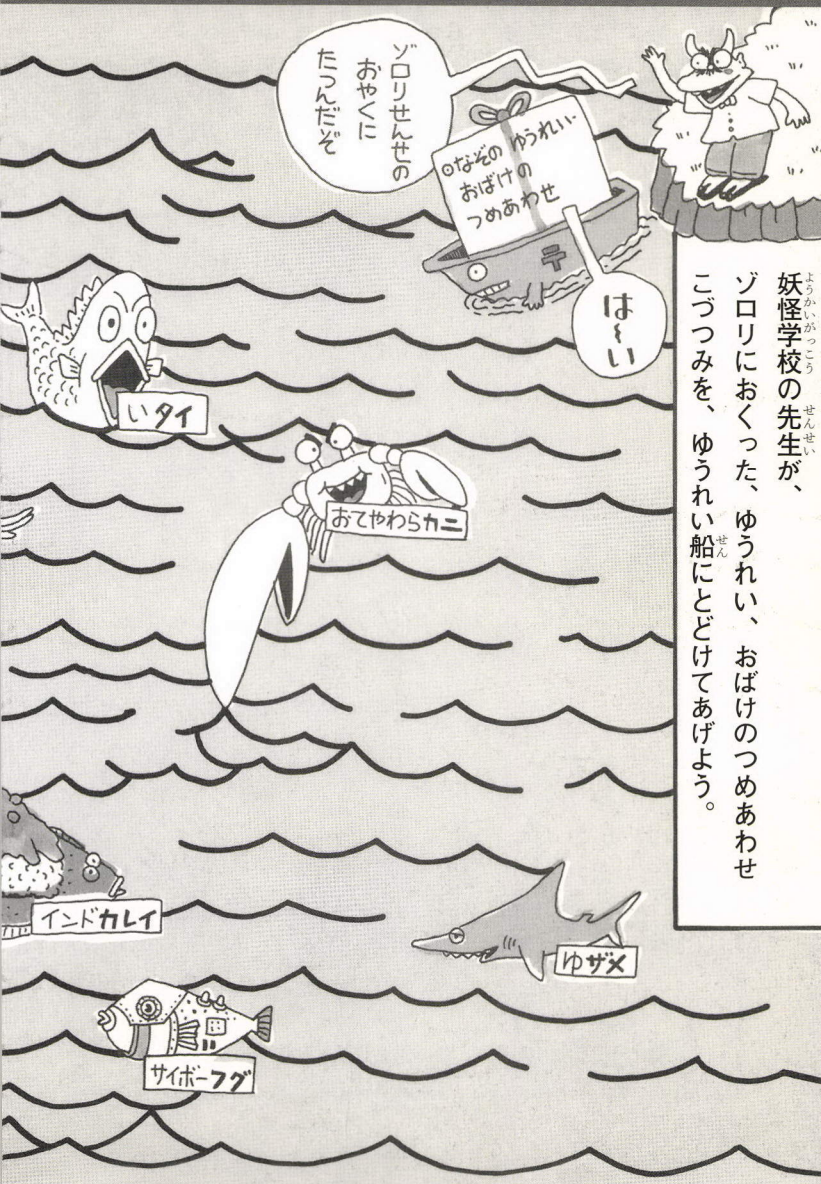
自信まんまんのゆうれい船を、
みなさんもじっくり見てみたいでしょ？

海にうかぶ、みょうちきりんな船から、
へんてこりんな歌がきこえてきました。

かいけつゾロリのゆうれいせん

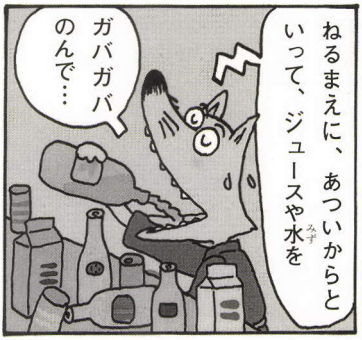


☆おまけページ・1



妖怪学校の先生が、ゾロリにおくった、ゆうれい、おばけのつめあわせこづつみを、ゆうれい船にとどけてあげよう。

かいけつゾロリの ゆうれいせん


ねるまえに、あついからといって、ジュースや水を
ガバガバのんで…

おトイレにもいかずにねちゃうと
――
おやすみなさーい

おねしょでおぼれることがあるんだぜ。
気をつけろよ…。

ゾロリ 2 in 1

かいけつゾロリのゆうれいせん チョコレートじょう

作・絵　原　ゆたか

ポプラ ポケット文庫

ゾロリ2in1

かいけつゾロリのゆうれいせん チョコレートじょう

作・絵　原 ゆたか

2in1